
2024年3月期 決算説明資料

プライム市場 5121
藤倉コンポジット株式会社

2024年6月14日

代表取締役 社長執行役員 森田 健司



FUJIKURA COMPOSITES

目次

本日お伝えしたいこと

I . 企業概要

II . 2024年3月期決算

III . 2025年3月期業績予想

IV . 中期経営計画の進捗状況

V . 企業価値向上の実現に向けた取り組みの進捗状況

① 稼ぐ力の強化

② 新成長戦略

③ 新株主還元方針

④ 投資家とのコミュニケーション向上

VI . Appendix



1. 企業概要



私たちは卓越した複合化技術で、
豊かなくらしをささえるグローバルカンパニーを目指します

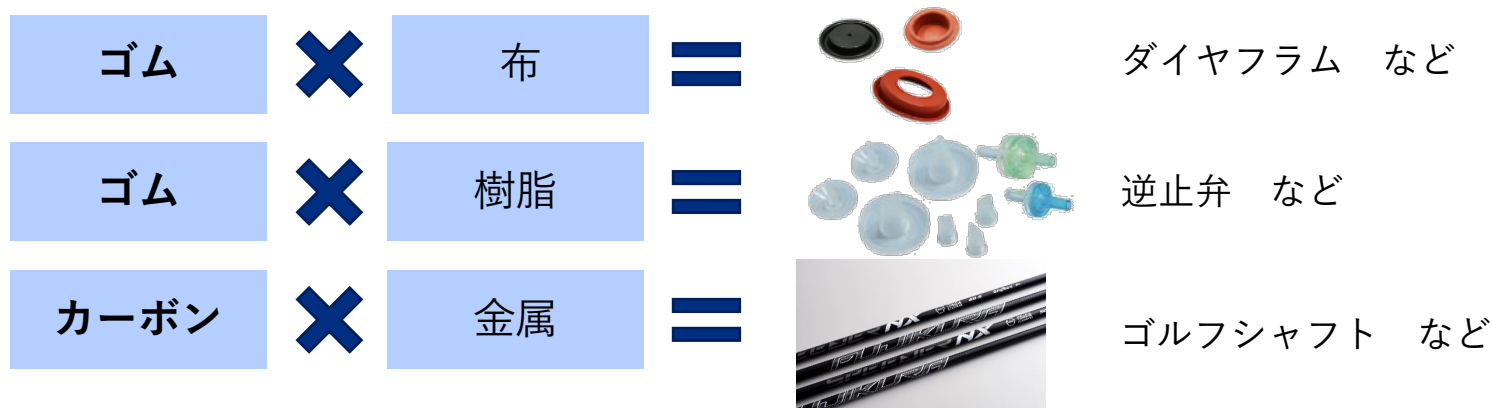
複合化技術を生かしてゴムだけにとらわれない

新しい製品分野に積極的に進出

価値の創出に取り組んでいます

コンポジット = 複合化・複数の要素を組み合わせること

当社は、これまでゴムと布を組み合わせる技術から、金属や樹脂などと組み合わせることによって様々な製品を生み出してきました



主に3つのセグメントで事業を展開

スポーツ用品

売上高
10,714百万円

売上高構成比
28.4%
(2023年3月期：31.7%)

- ゴルフ用カーボンシャフトの製造販売
- 産業用CFRP製品の製造販売
- 登山等アウトドア製品の販売

引布加工品

売上高
4,949百万円

売上高構成比
13.1%
(2023年3月期：12.3%)

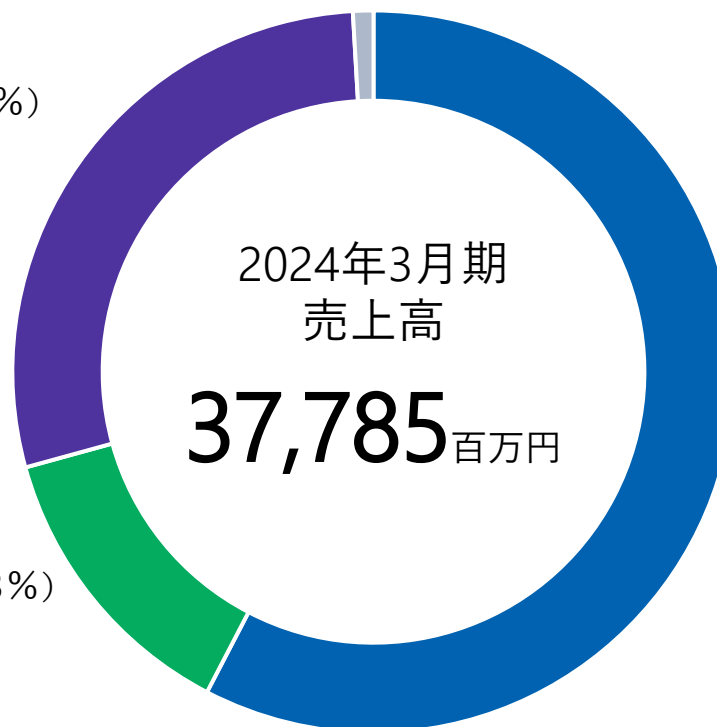
- ゴム引布の製造販売
- 船舶・防衛関連救命いかだの製造販売
- 救命・医療・災害用製品の製造販売
- 産業用ゴム引布加工品の製造販売
- 印刷材料の製造販売

産業用資材

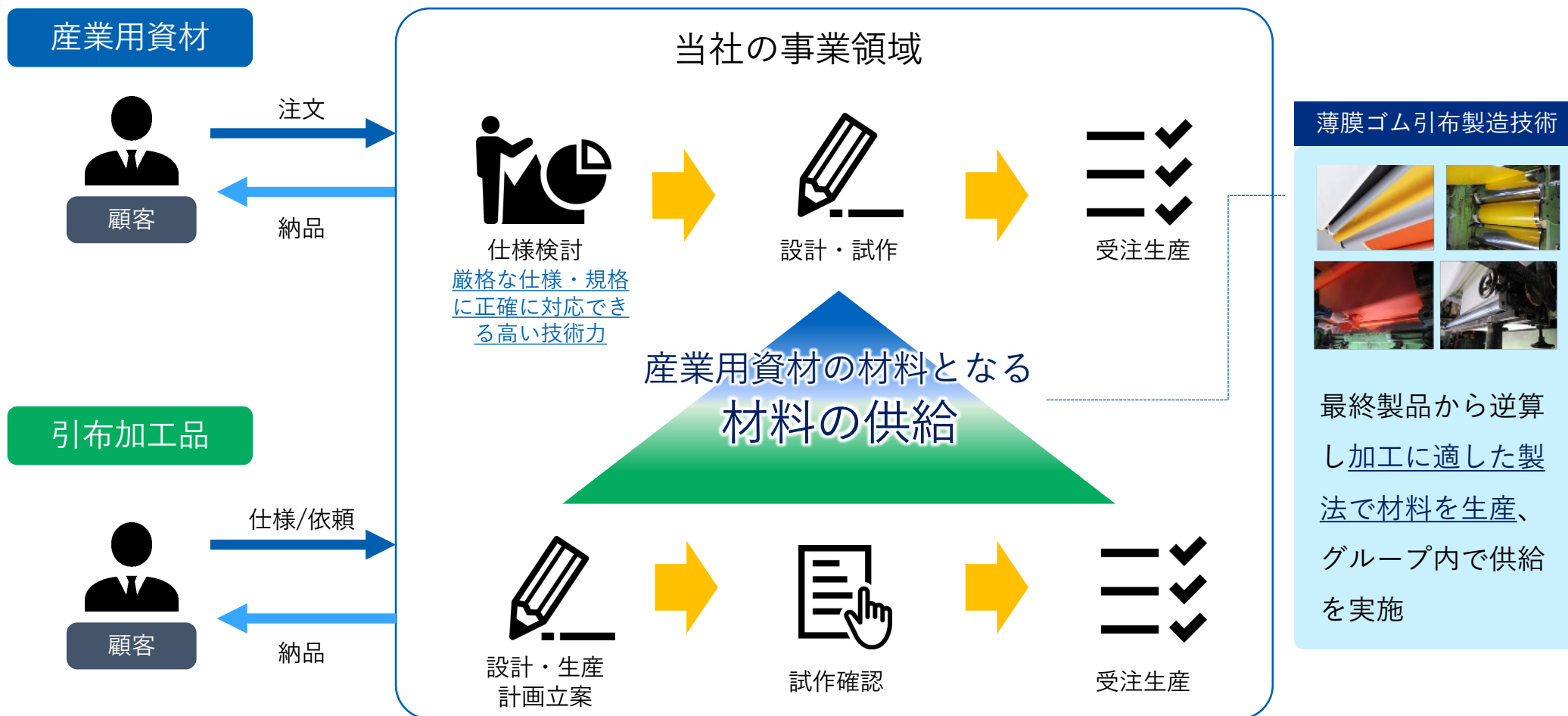
売上高
21,776百万円

売上高構成比
57.6%
(2023年3月期：55.1%)

- 自動車部品の製造販売
- 住宅設備・インフラ関連部品の製造販売
- 医療関連部品の製造販売
- 空圧制御機器の製造販売
- 液晶・半導体製造設備関連機器の製造販売



産業用資材と引布加工品のシナジー効果を活かして 1つのビジネスフローを形成しています

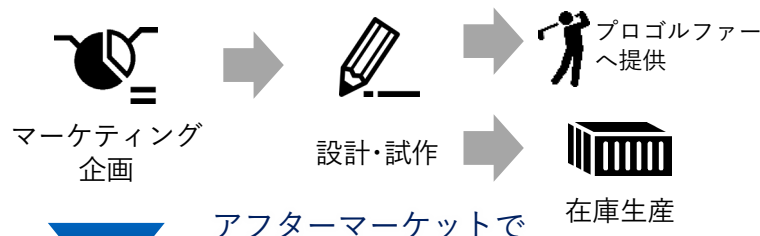


セグメント内に3つのビジネスフローを有し 特性に合わせてブランド力強化を図っています

スポーツ用品

ゴルフシャフトにみる3つのビジネスフロー

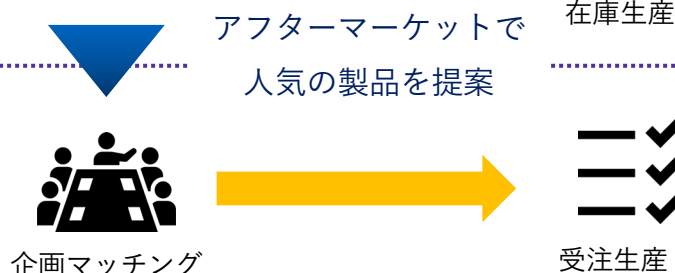
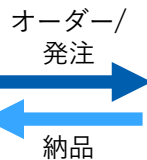
■ アフターマーケット向け
(自社製品：リシャフト)



量販店/
ショップ

収益性	供給量
高	少
中	中
低	多

■ カスタム向け
(自社製品：
オリジナル)



■ OEM製品
(クラブメーカー
オリジナル)





II. 2024年3月期決算



FUJIKURA COMPOSITES

事業に関する 業績要因

売上高

- 国内の住宅設備関連は流通在庫過多の影響で低調
- 液晶市場及び半導体市場は減産が続き低調
- ゴルフシャフトは流通在庫過多により低調

営業利益

- 工業用品部門は、海外での価格転嫁、固定費削減により増益
- ゴルフシャフトはアフターマーケット市場で好調を維持し、高い利益率を維持

2024年3月期 事業環境

- 自動車市場は国内・海外共に回復の傾向
- 各セグメント市場では、流通在庫の過多が続く

2024年3月期 特殊要因

- 自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金他で592百万円の特別利益を計上
- 前期に続きオフセット印刷機用ブランケット事業から撤退により185百万円の特別損失を計上

- 自動車市場の回復、ゴルフシャフトは依然高い利益率を維持するも、売上高、営業利益共に前期を下回る。

(単位：百万円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 期初計画	2024年3月期 実績	期初計画比 (%)	前期比 (%)
売上高	40,687	39,900	37,785	▲5.3%	▲7.1%
営業利益	4,432	4,100	3,624	▲11.6%	▲18.2%
営業利益率 (%)	10.9%	10.3%	9.6%	▲0.7Pt	▲1.3Pt
当期純利益	3,947	3,400	3,252	▲4.4%	▲17.6%

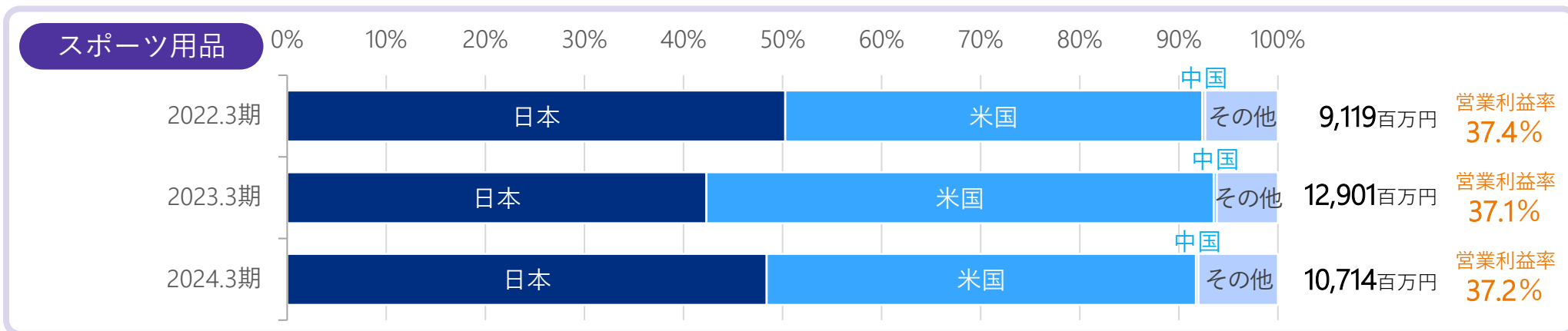
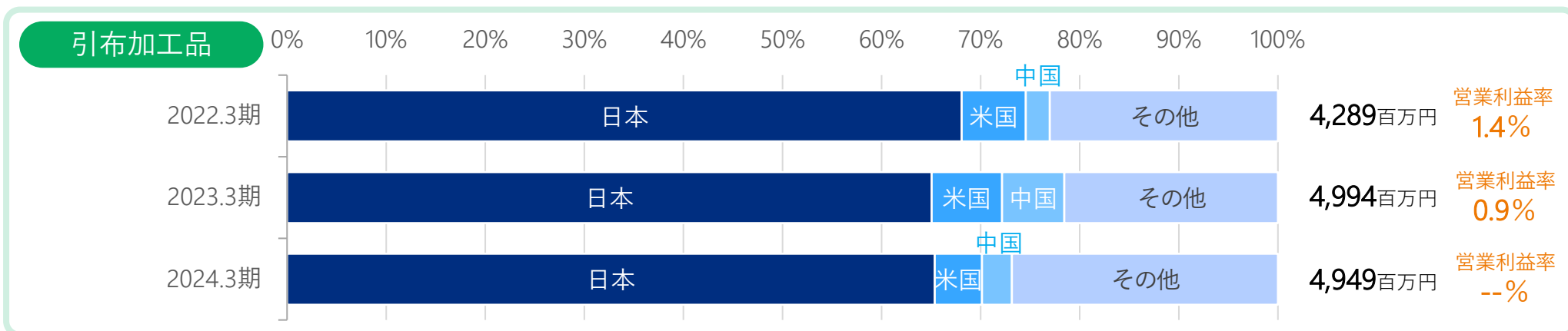
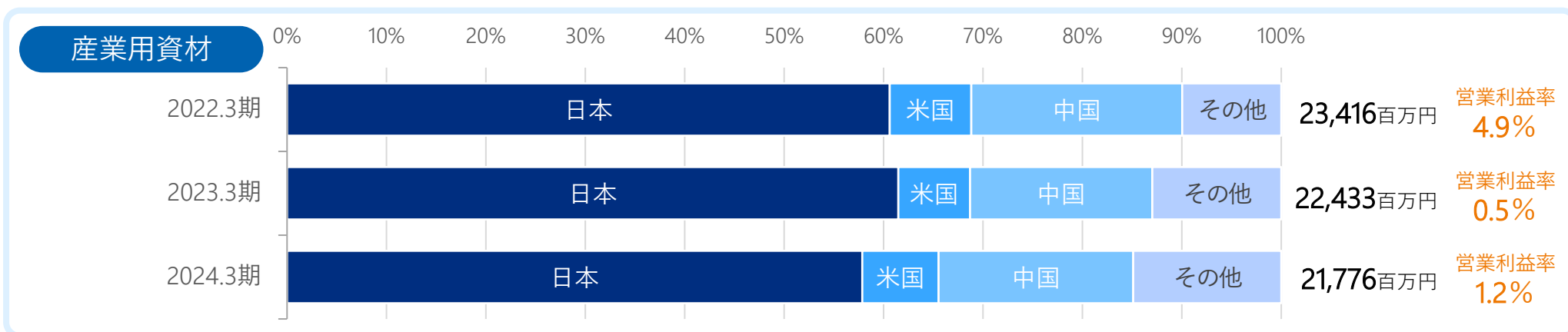
主要セグメント別実績



(単位：百万円)

セグメント		2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	2024年3月期 実績	前期比 (%)	トピックス
産業用 資材	売上高	22,433	22,000	21,776	▲2.9%	<ul style="list-style-type: none"> 工業用品部門は、国内は住宅設備関連の流通在庫過多の解消に至っておらず営業損失となったが、中国、米国における受注の回復と価格転嫁、固定費削減が進んだことにより増益。 制御機器部門は、海外向け半導体市場は堅調に推移したが、国内向け半導体市場及び液晶市場の減産が続き、医療市場はコロナ禍で増産した医療機器の流通在庫過多の影響が継続し、減収減益。
	営業利益	104	500	258	+148.1%	
	営業利益率	0.5%	2.3%	1.2%	+0.7Pt	
引布 加工品	売上高	4,994	5,200	4,949	▲0.9%	<ul style="list-style-type: none"> 引布部門は、電気・電子分野向けの部材や一般ゴム引布の建材用製品などが好調に推移し、また原材料費やエネルギー費などの価格転嫁が進んだことにより、増収増益。 印刷材料部門は、事業撤退に伴い期中において販売終了となり、減収減益。 加工品部門は、海外向け舶用品や防衛関連製品が堅調に推移したが、国内向け舶用品は低調に推移したことや販売費の増加により、増収減益。
	営業利益	45	200	▲43	-	
	営業利益率	0.9%	3.8%	-	-	
スポーツ 用品	売上高	12,901	11,200	10,714	▲17.0%	<ul style="list-style-type: none"> ゴルフ用カーボンシャフト部門は、ゴルフクラブ市場における世界的な流通在庫過多の影響が継続し、クラブメーカー向けの販売が減少となり、減収減益。自社ブランドの主力モデルがアフターマーケット市場で好調を継続し、依然高い利益率を維持。 アウトドア用品部門は、暖冬の影響により冬物商品の動き出しが遅れ減収となったものの、ハイキング・トレッキング市場で登山靴の主力モデルが高いブランド力を維持し、加えて3月に春夏アイテムを予定通り販売開始した事により、増益。
	営業利益	4,786	4,200	3,989	▲16.6%	
	営業利益率	37.1%	37.5%	37.2%	▲0.1Pt	

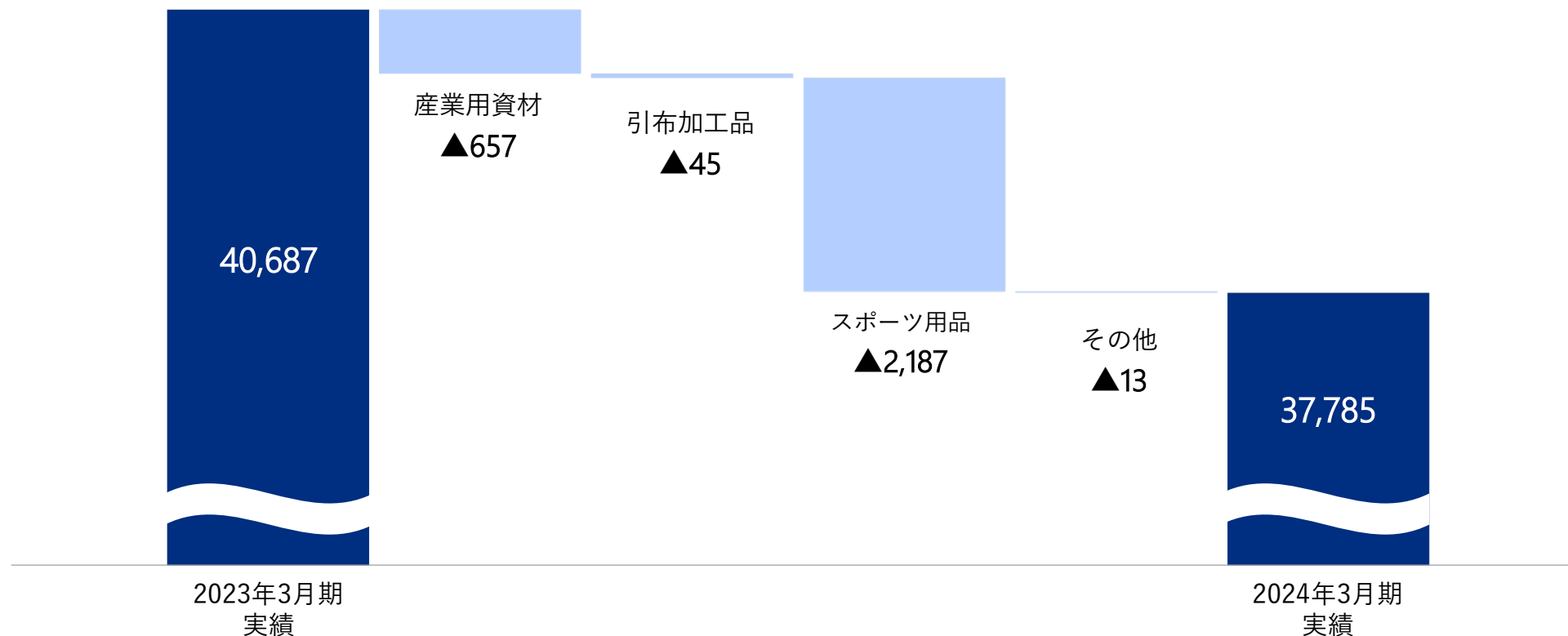
セグメント別 売上高構成推移【地域別】



2024年3月期 売上高の増減要因分析

2023年3月期 実績 ⇒ 2024年3月期 実績

(単位：百万円)

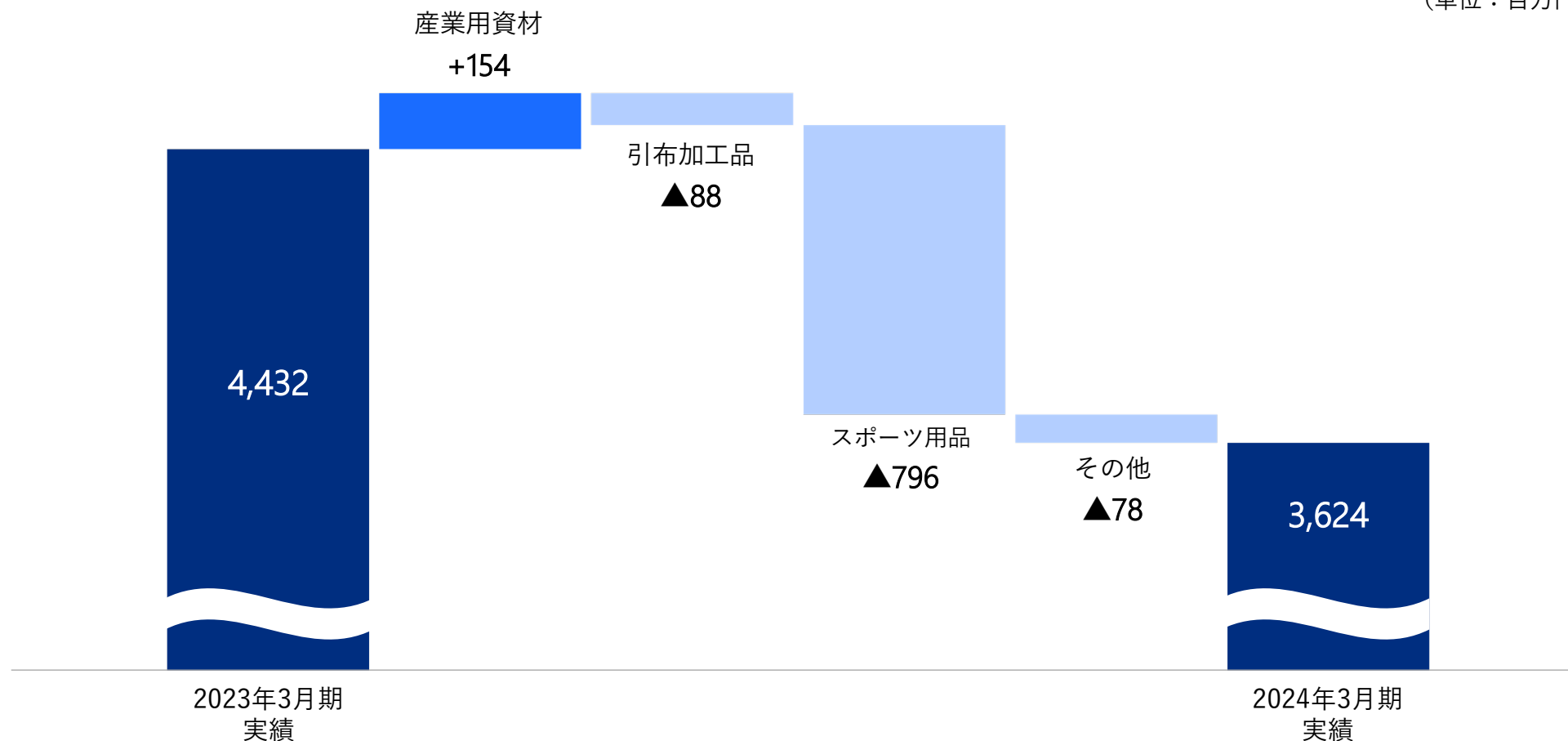


前期実績比
▲2,902百万円

2024年3月期 営業利益の増減要因分析（セグメント別）

2023年3月期 実績 ⇒ 2024年3月期 実績

(単位：百万円)

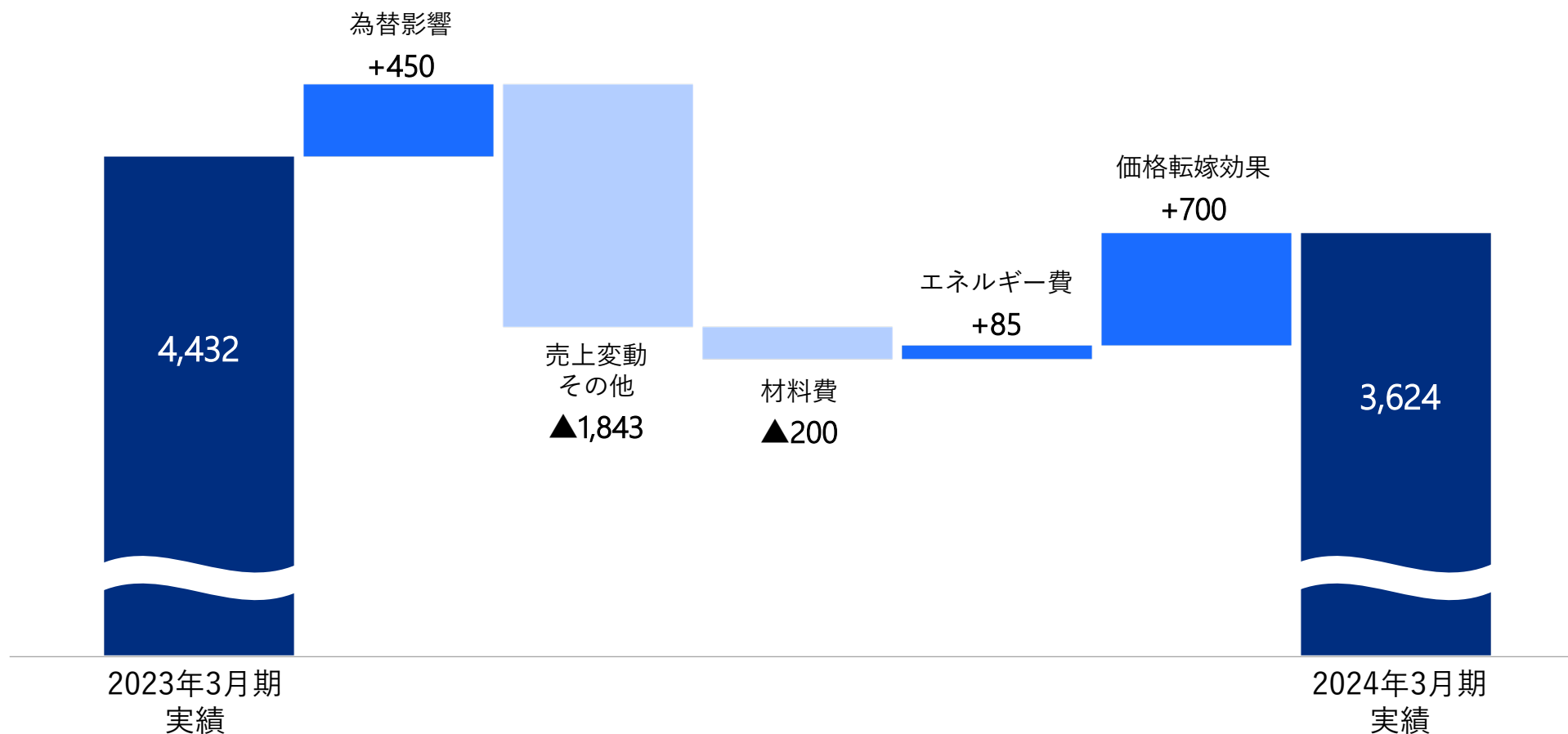


前期実績比
▲ 808百万円

2024年3月期 営業利益の増減要因分析（要因別）

2023年3月期 実績 ⇒ 2024年3月期 実績

（単位：百万円）

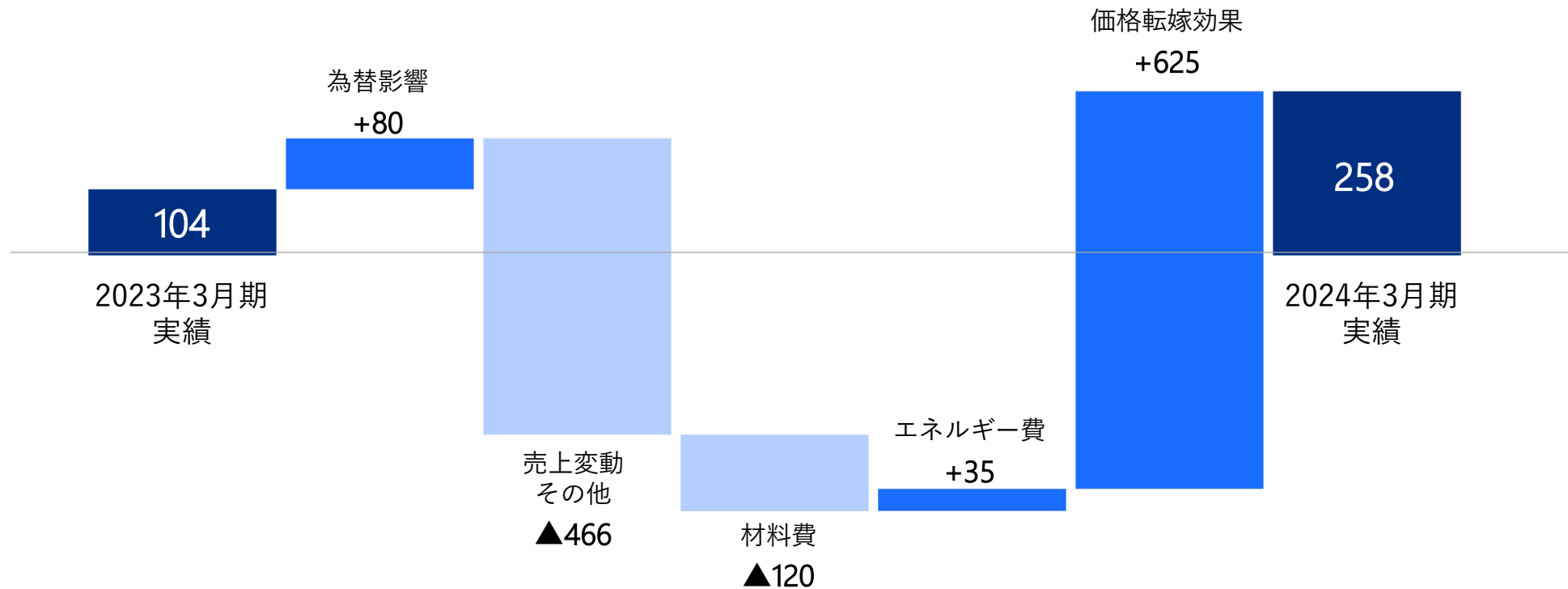


前期実績比
▲ 808百万円

2024年3月期 産業用資材営業利益の増減要因分析

2023年3月期 実績 ⇒ 2024年3月期 実績

(単位：百万円)

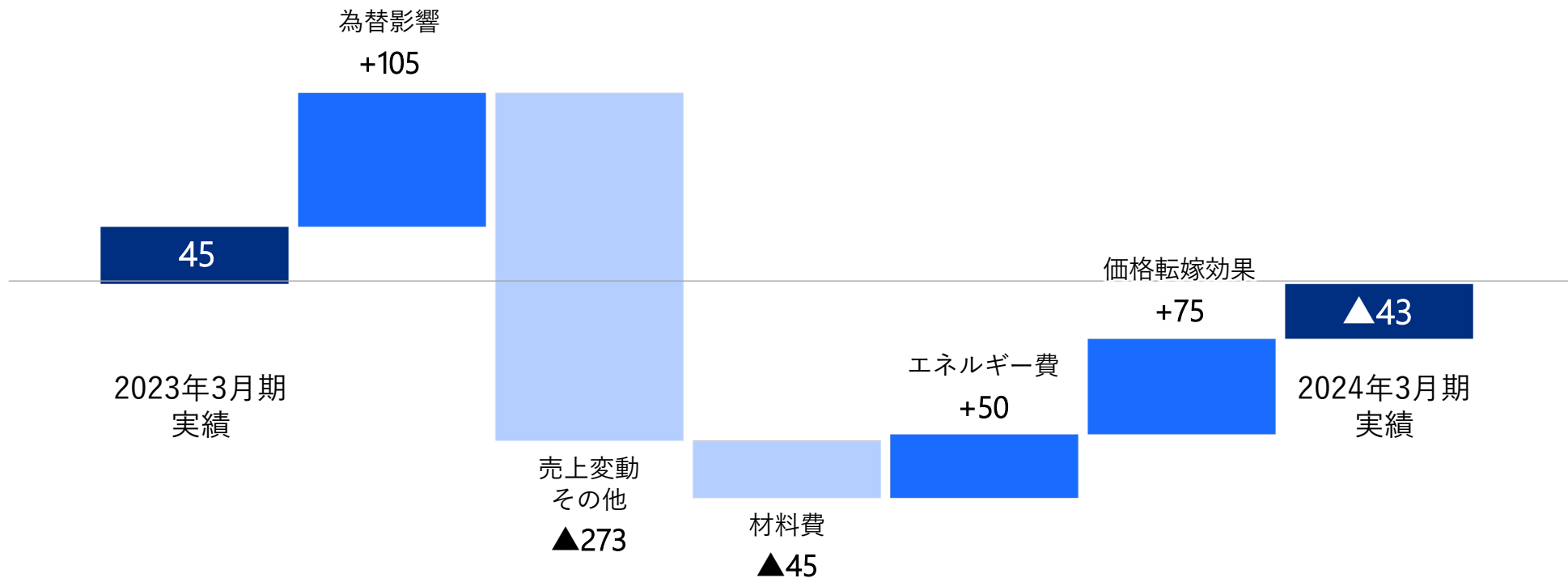


前期実績比
+ 154百万円

2024年3月期 引布加工品営業利益の増減要因分析

2023年3月期 実績 ⇒ 2024年3月期 実績

(単位：百万円)

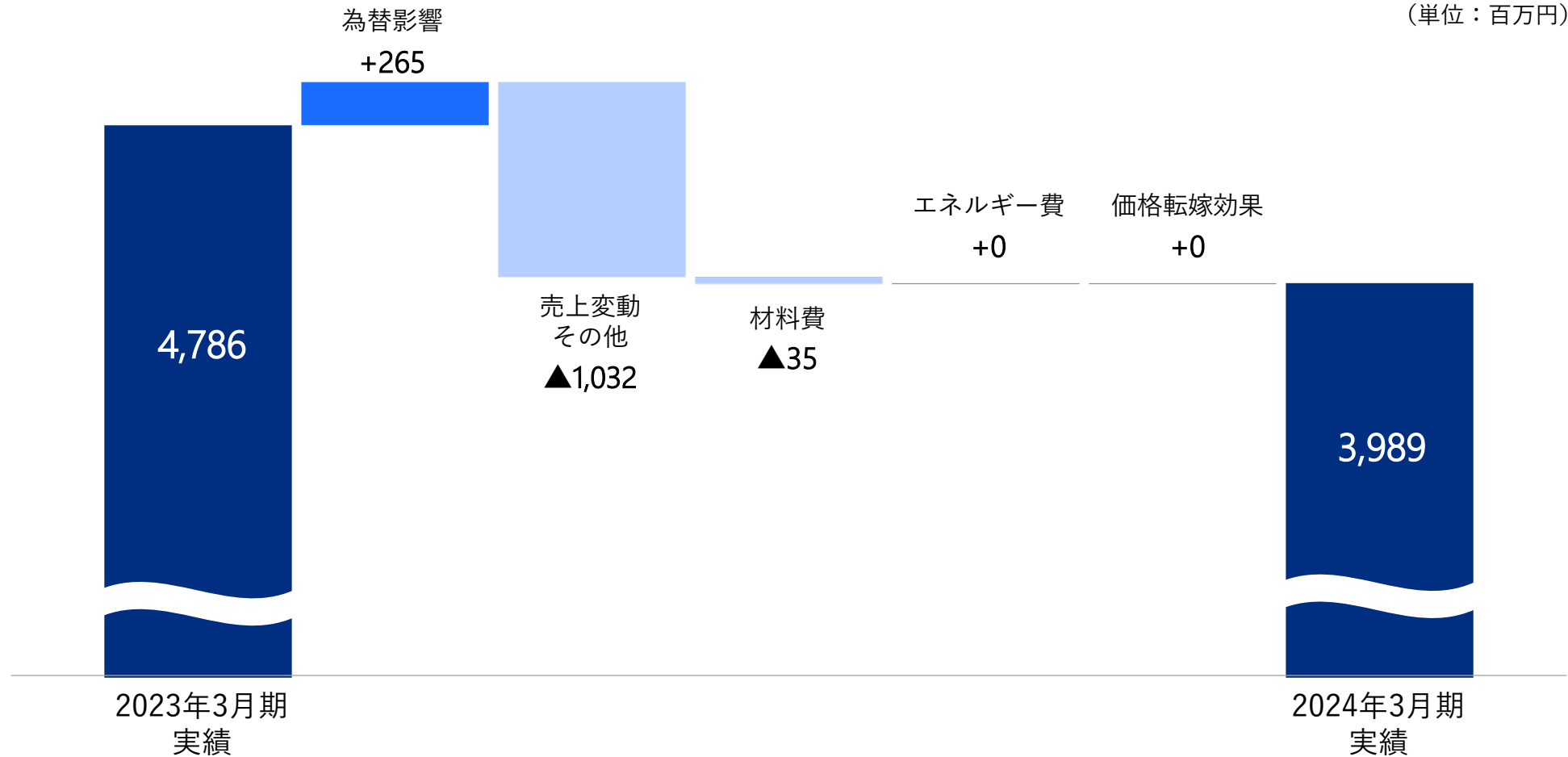


前期実績比
▲ 88百万円

2024年3月期 スポーツ用品営業利益の増減要因分析

2023年3月期 実績 ⇒ 2024年3月期 実績

(単位：百万円)



前期実績比

▲797百万円

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2023年3月期		2024年3月期			内容
	期末残高	構成比	期末残高	構成比	増減額	
流動資産	26,184	64.9%	28,515	64.7%	+2,331	<ul style="list-style-type: none"> 現金及び預金の増加などにより流動資産が23億3千1百万円増加し、有形固定資産や投資有価証券の増加などにより固定資産が13億7千万円増加
固定資産	14,190	35.1%	15,560	35.3%	+1,370	
資産合計	40,374	100.0%	44,075	100.0%	+3,701	
流動負債	5,199	12.9%	5,382	12.2%	+183	<ul style="list-style-type: none"> 設備関係支払手形の増加などにより流動負債が1億8千3百万円増加し、長期繰延税金負債の増加などにより固定負債が3億6千1百万円増加
固定負債	1,832	4.5%	2,194	5.0%	+361	
負債合計	7,032	17.4%	7,576	17.2%	+544	
純資産合計	33,342	82.6%	36,499	82.8%	+3,157	<ul style="list-style-type: none"> 親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が増加したことや為替換算調整勘定が増加
負債・純資産合計	40,374	100.0%	44,075	100.0%	+3,701	

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,442	5,271	+2,828
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 857	▲1,057	▲199
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,731	▲1,378	+353
現金及び現金同等物の増減額	323	3,000	+2,677
現金及び現金同等物の期首残高	6,905	7,228	+323
現金及び現金同等物の期末残高	7,228	10,228	+3,000

営業活動によるキャッシュ・フロー

主に「税金等調整前当期純利益」を42億3千3百万円計上したことによるもの

投資活動によるキャッシュ・フロー

主に「有形固定資産の取得による支出」8億5千9百万円によるもの

財務活動によるキャッシュ・フロー

主に「株主配当金」12億7千2百万円によるもの














III. 2025年3月期業績予想



FUJIKURA COMPOSITES

2025年3月期 主要な外部環境

	2024年3月期 市場結果	2025年3月期 市場予想	外部環境	当社の取り組み
産業用資材 自動車			<ul style="list-style-type: none"> ● 日米の自動車市場は回復 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電動化市場へ注力する
産業用資材 住宅設備・ インフラ			<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅設備関連は下期まで市場在庫調整の見込み 	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き価格転嫁、原価低減活動を進める
産業用資材 液晶・半導体			<ul style="list-style-type: none"> ● 半導体市場、液晶市場ともに下期までは在庫調整が続く 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新製品の拡販、新規顧客の開拓を進める
産業用資材 医療			<ul style="list-style-type: none"> ● 機器関連は市場在庫調整が続く 	<ul style="list-style-type: none"> ● 部材関連の新規品立上げに注力する
引布加工品			<ul style="list-style-type: none"> ● 国の防衛装備予算増額などが予定通り推移 ● 小型船舶用の救命装置の義務化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 確実な製品の立上げ、生産の整備
スポーツ用品			<ul style="list-style-type: none"> ● 市場在庫調整の終盤を迎えつつある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新製品投入による市場活性化、営業の拡販と製品認知の強化

2025年3月期 業績予想

- 下期に向けて、住宅設備関連、半導体市場、医療関連の回復を見込む。
- ゴルフ市場の在庫調整も落ち着く見込み。新製品投入で需要を喚起する。

(単位：百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前期比 (%)	前期比 増減額
売上高	37,785	39,200	+3.7%	+1,415
営業利益	3,624	3,900	+7.6%	+276
営業利益率 (%)	9.6%	9.9%	+0.3Pt	-
当期純利益	3,252	3,200	▲1.6%	▲52

主要セグメント別予想値

(単位：百万円)

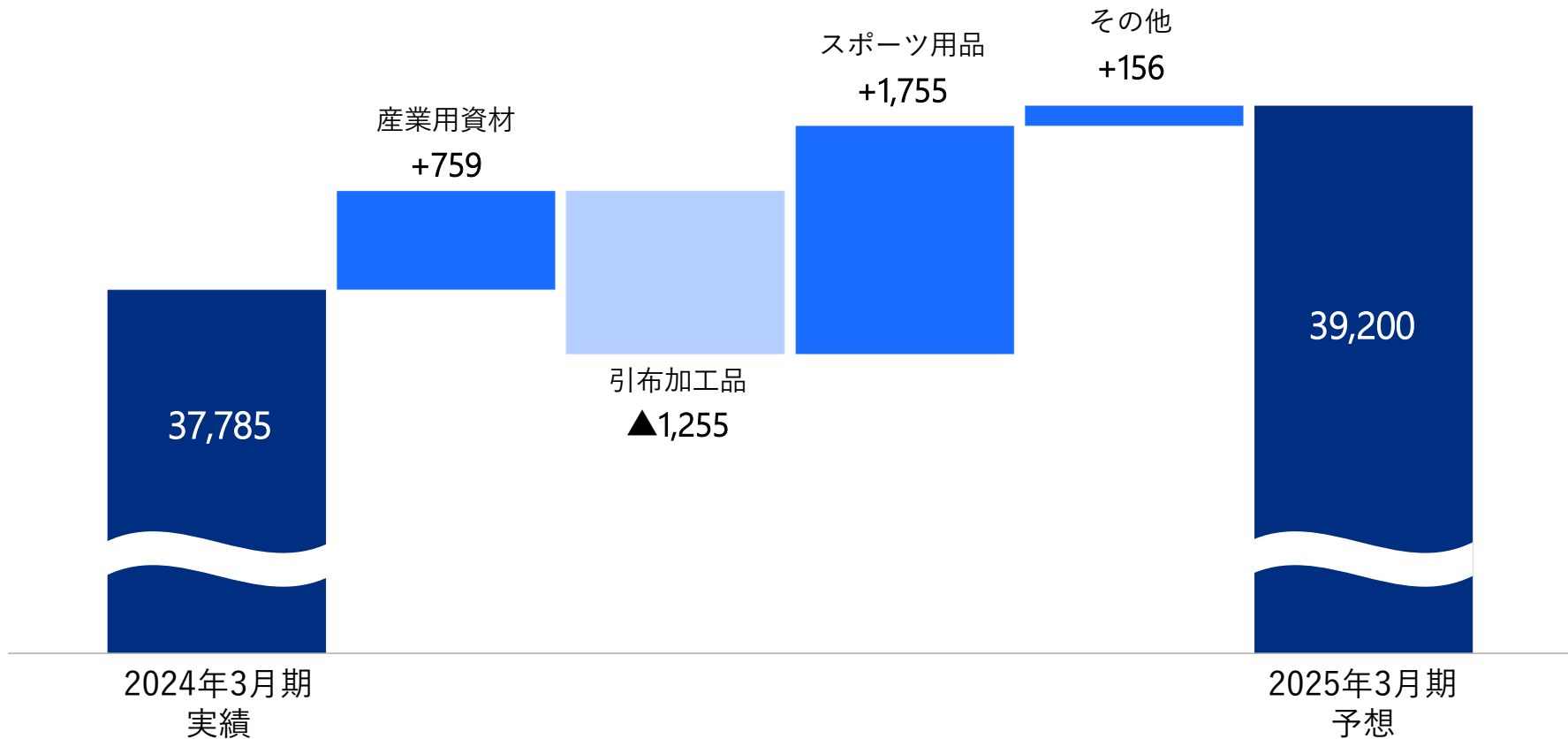
セグメント		2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前期比 (%)	トピックス
産業用 資材	売上高	21,776	22,500	3.3%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自動車 受注の回復を見込みつつ、電動化市場向け製品群の拡販、新規受注を進める。 ■ 住設 受注の回復がどこまで進むか不透明ではあるが、下期にはガス関連、半導体関連の回復を見込み、拡販活動、価格転嫁に努める。 ■ 制御 半導体市場・液晶市場の回復遅れで引き続き厳しい状況は続く。新製品の拡販、顧客開拓を進める。 ■ 医療 メディカル機器は下期からの回復を見込むが、部材関連の立上げ遅れが見込まれるため、早期立ち上げに注力する。
	営業利益	258	700	171.3%	
	営業利益率	1.2%	3.1	+1.9pt	
引布 加工品	売上高	4,949	3,700	▲25.2%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 引布 自動車向けは今期も堅調に推移予定。また電気・電子分野向けアイテムは更に増加の予定。 ■ 加工品 国内向け舶用品は小型浮器が堅調に推移、海外向け舶用品も堅調に推移の予定。また官需関連も堅調に推移の予定。
	営業利益	▲43	54	-	
	営業利益率	-	1.5	-	
スポーツ 用品	売上高	10,714	12,500	16.7%	<ul style="list-style-type: none"> ■ シャフト メーカー在庫調整も落ち着きつつあり、新製品効果で需要の活性化と営業注力で製品の拡販、認知度をより高める。 ■ アウトドア キャラバンは引き続き主力製品のシューズ類が好調に推移し増収増益の見込み。
	営業利益	3,989	4,200	5.3%	
	営業利益率	37.2%	33.6	▲3.6pt	

2025年3月期 売上高予想の増減要因分析（セグメント別）



2024年3月期 実績 ⇒ 2025年3月期 予想

(単位：百万円)

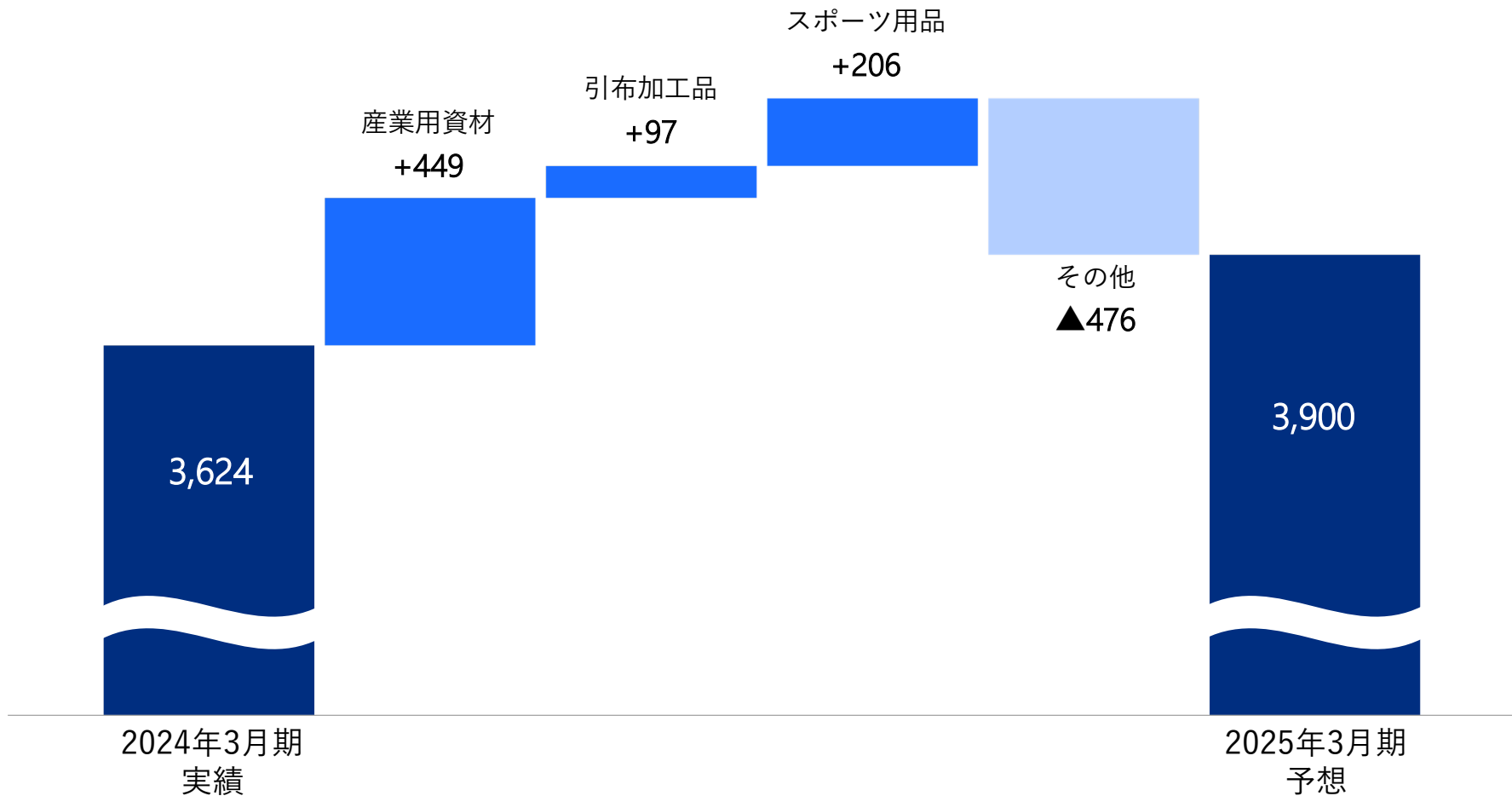


前期実績比
+ 1,415百万円

2025年3月期 営業利益予想の増減要因分析 (セグメント別)

2024年3月期 実績 ⇒ 2025年3月期 予想

(単位：百万円)

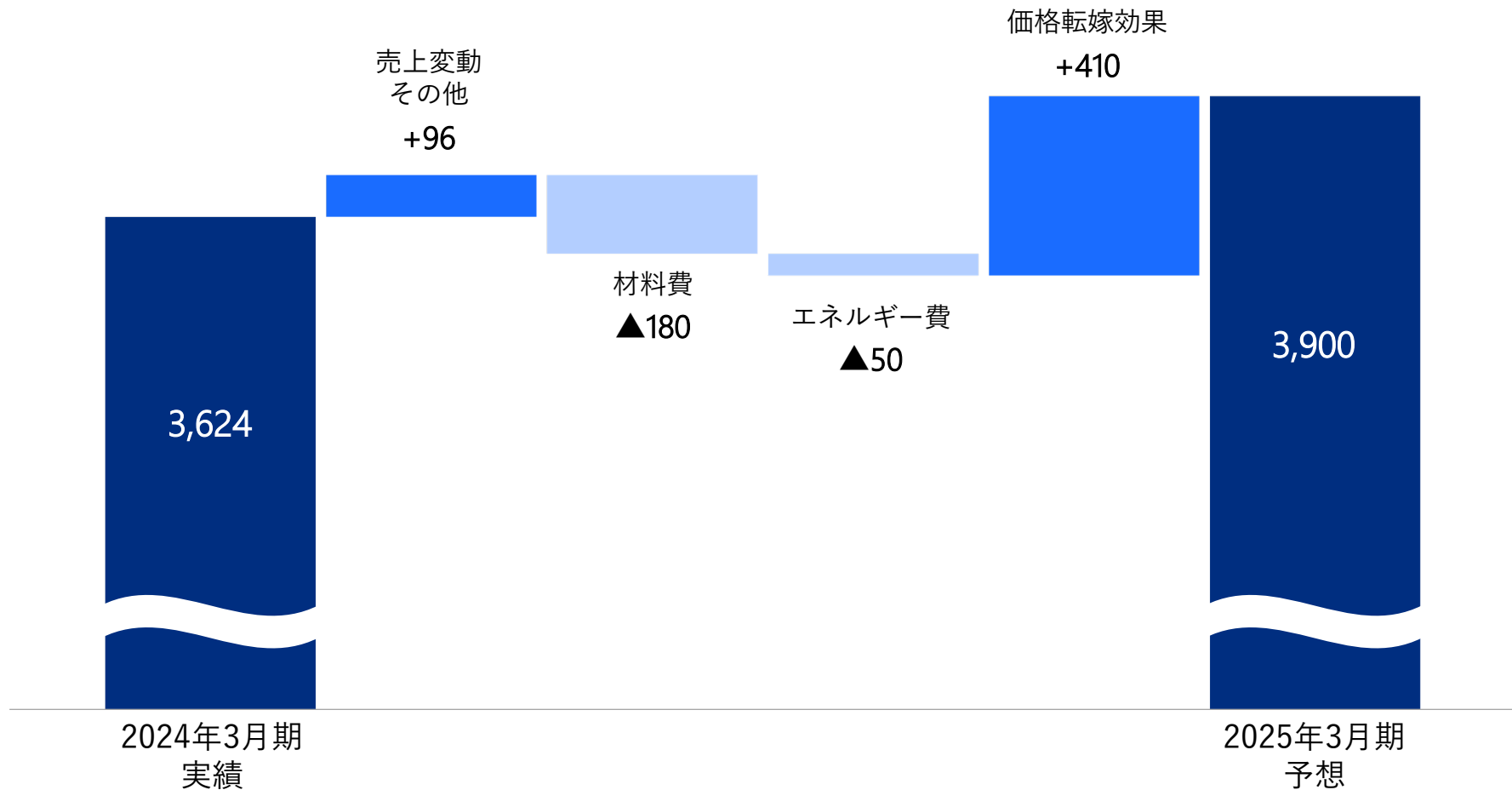


前期実績比
+ 276百万円

2025年3月期 営業利益予想の増減要因分析（要因別）

2024年3月期 実績 ⇒ 2025年3月期 予想

（単位：百万円）

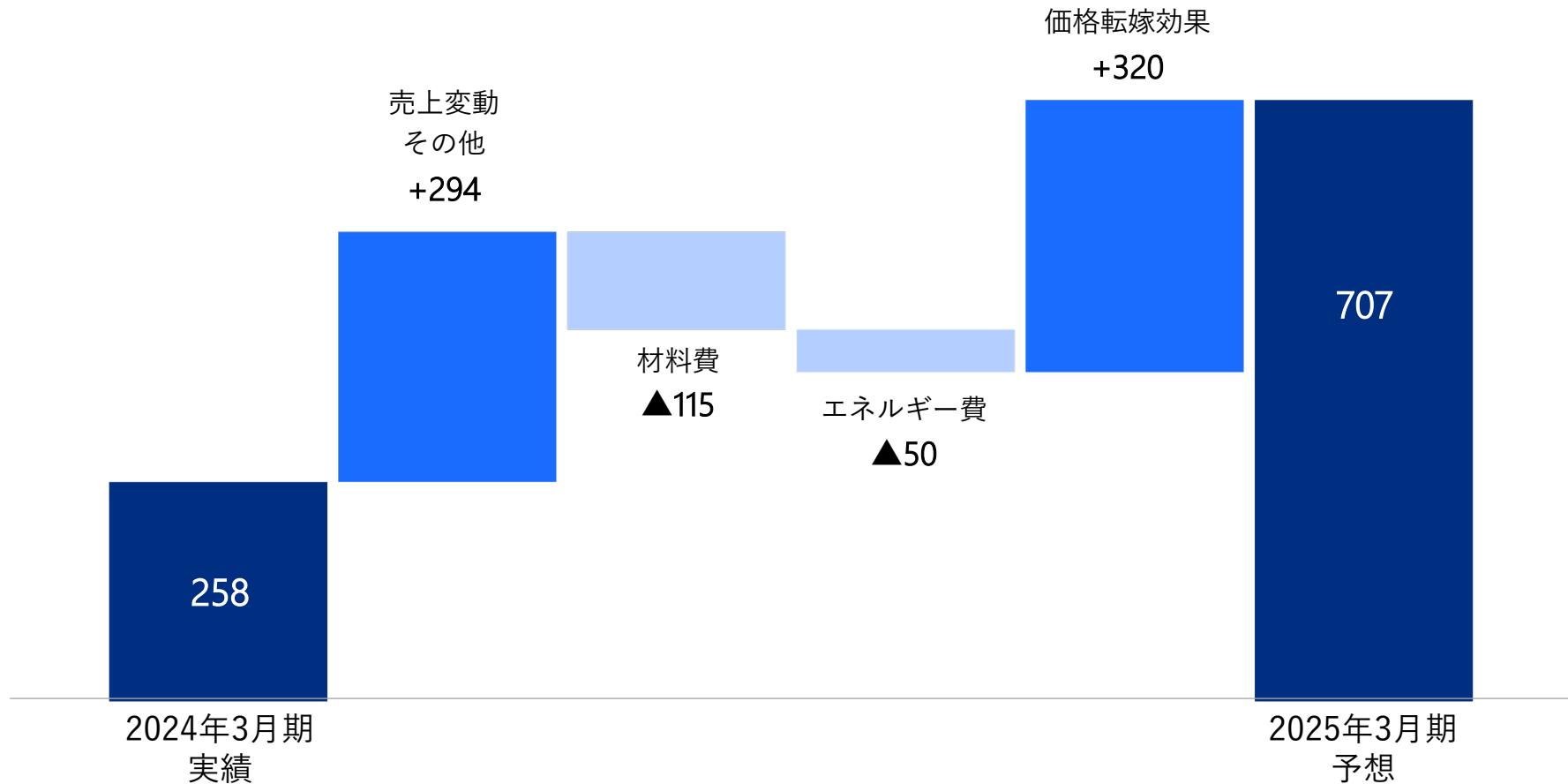


前期実績比
+ 276百万円

2025年3月期 産業用資材営業利益予想の増減要因分析

2024年3月期 実績 ⇒ 2025年3月期 予想

(単位：百万円)

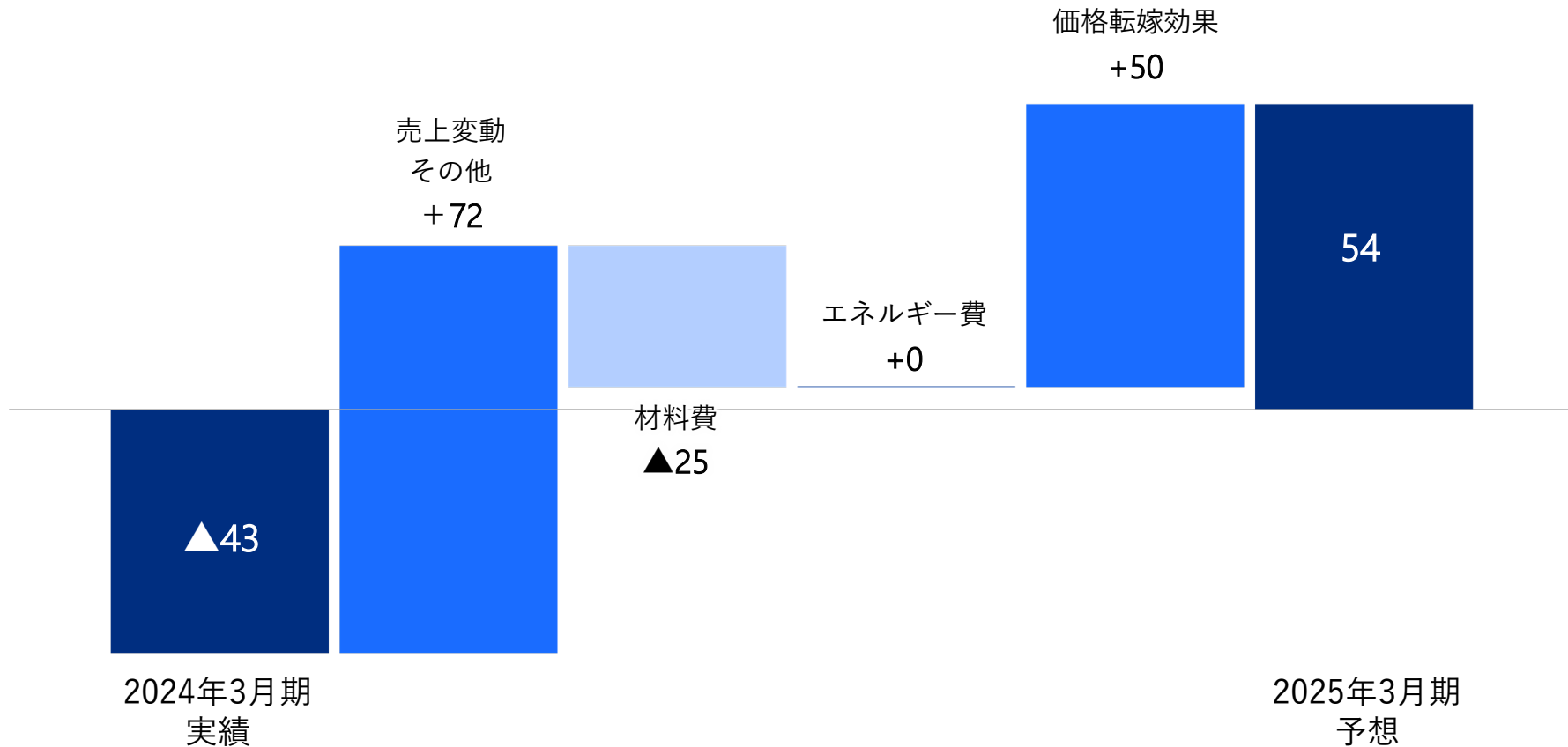


前期実績比
+ 449百万円

2025年3月期 引布加工品営業利益予想の増減要因分析

2024年3月期 実績 ⇒ 2025年3月期 予想

(単位：百万円)

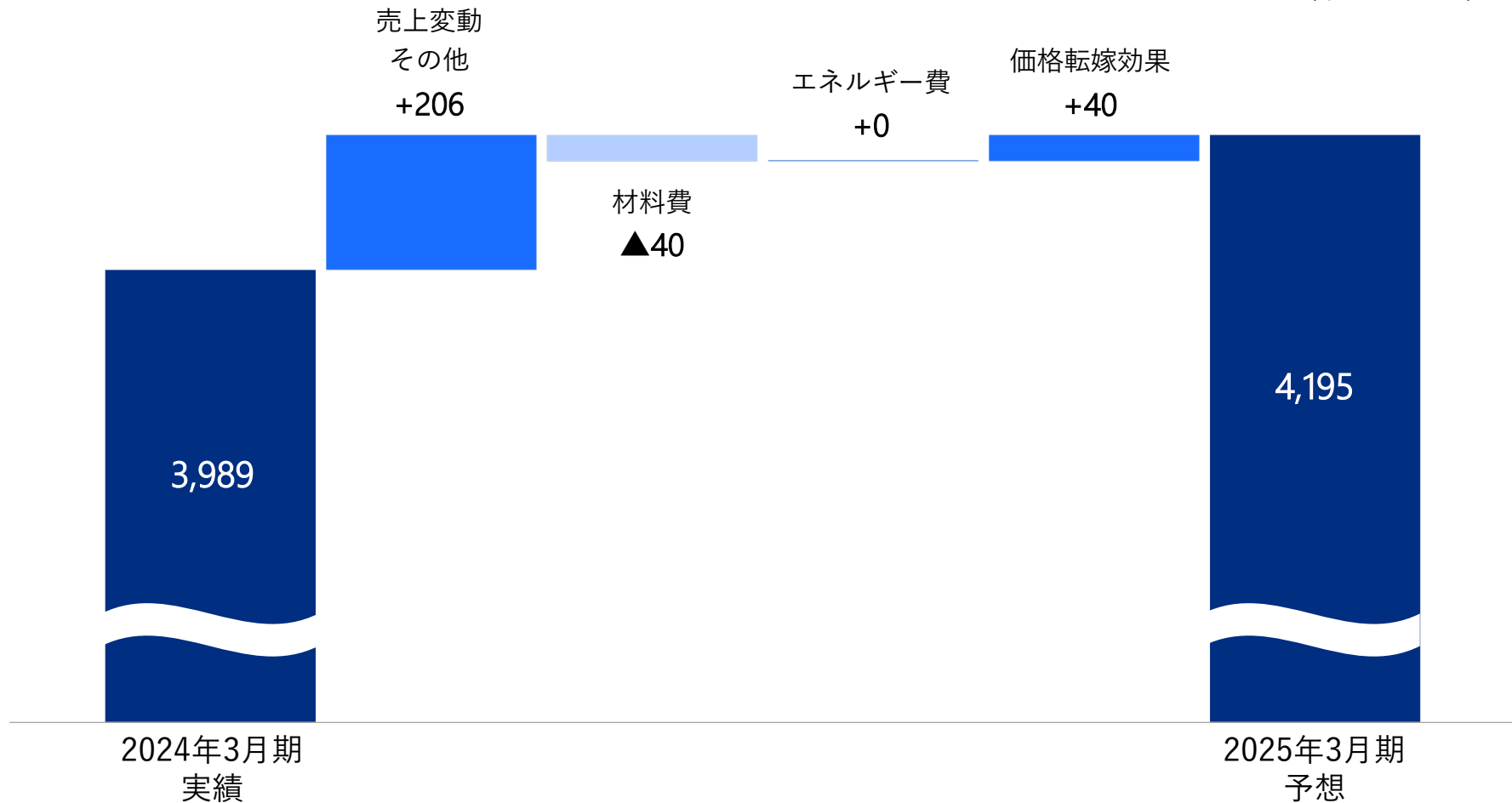


前期実績比
+ 97 百万円

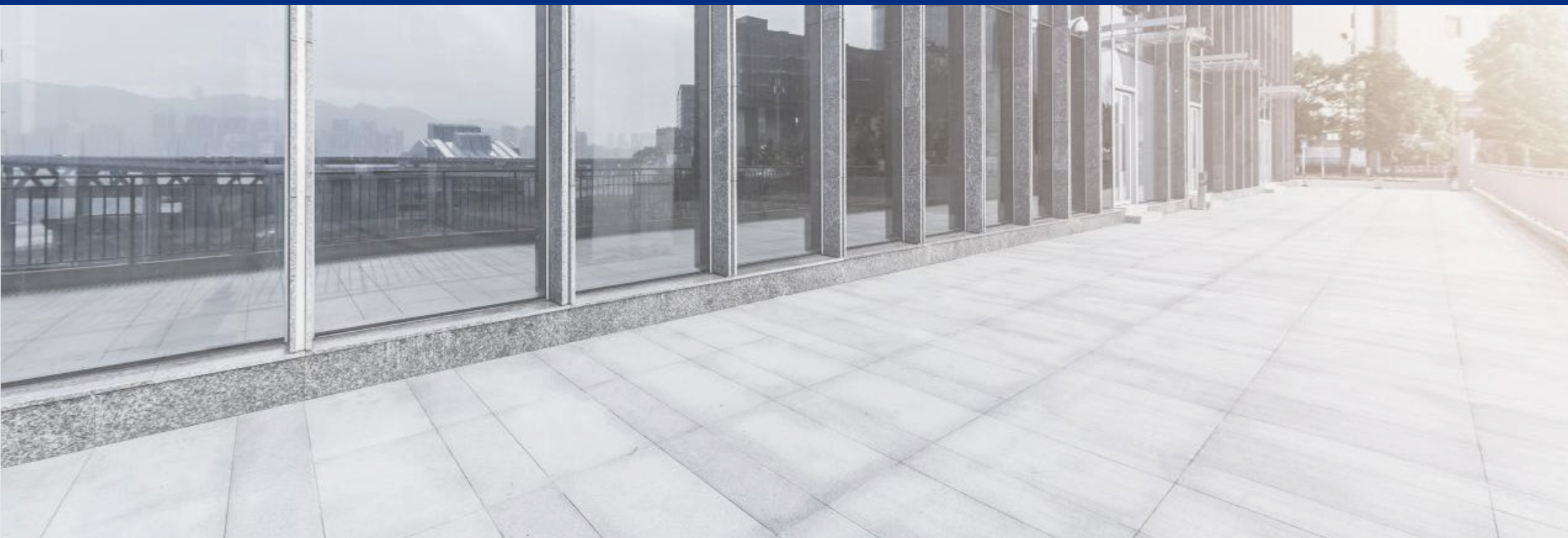
2025年3月期 スポーツ用品営業利益予想の増減要因分析

2024年3月期 実績 ⇒ 2025年3月期 予想

(単位：百万円)



前期実績比
+ 206百万円



IV. 中期経営計画の進捗状況



FUJIKURA COMPOSITES

当中期経営計画の位置づけ（2023年12月更新）

2021年3月期-2025年3月期
第6次中期経営計画

第6次中期経営計画 21年3月期-25年3月期

TRANSFORM

変化にチャレンジし、「変わる」から「変える」へ

成長期

回復期

中期経営計画 フェーズ1

2021年3月期 – 2023年3月期

中期経営計画 フェーズ2

2023年3月期 – 2025年3月期

単位： 百万円		売上高	営業利益	営業利益率
実績	2021年3月期 (142期)	29,275	1,172	4.0%
実績	2022年3月期 (143期)	37,190	4,160	11.2%
実績	2023年3月期 (144期)	40,687	4,432	10.9%
3年間合計(実績)		107,152	9,764	9.1%

単位： 百万円		売上高	営業利益	営業利益率
実績	2023年3月期 (144期)	40,687	4,432	10.9%
見通	2024年3月期 (145期)	39,900	4,100	10.3%
見通	2025年3月期 (146期)	40,000	4,500	11.2%
3年間合計(見通)		120,587	13,032	10.8%

売上高

印材セグメントの撤退により計画比減収

- 事業ポートフォリオの見直しにより、印材事業からの撤退を決定
- 産業用資材は国内の在庫調整の影響を受ける
- スポーツ用品は市場の在庫過多の影響を受ける

現計画【見通し】

単位：百万円

	売上高	営業利益	営業利益率
2023年3月期 (144期)	40,687	4,432	10.9%
2024年3月期 (145期・見通し)	39,900	4,100	10.3%
2025年3月期 (146期・見通し)	40,000	4,500	11.2%
3年間合計 (見通し)	120,587	13,032	平均10.8%

営業利益

スポーツ部門の好調により利益確保

- 産業用資材は引続き価格転嫁を進める
- 引布加工品セグメントは、145期は印材事業撤退による費用を含むため減益を見込むも、146期から増益を見込む
- スポーツ用品の好調継続により利益確保

進捗状況【実績・予想】

売上高	営業利益	営業利益率	売上高 対計画進捗率
40,687	4,432	10.9%	-
37,785	3,624	9.6%	94.7%
39,200	3,900	9.9%	98.0%
117,672	11,956	平均10.1%	97.6%



V. 企業価値向上の実現に向けた 取り組みの進捗状況



FUJIKURA COMPOSITES

基本方針

「変わる」から「変える」へ ～TRANSFORM～

主要経営指標の目標値達成もPBR 1倍超が達成できていない

課題認識

1. スポーツ用品セグメント以外のセグメントの収益性の低さ
2. 将来にわたる持続的な成長を可能とする戦略の説明不足
3. 新成長戦略に向けた再投資の遅れ
4. 株主資本に対する株主還元が不十分
5. IR（投資者とのコミュニケーション）が不足

現在の経営指標の状況

	2011-2021 (平均)		2022-2023	2024.3期	目標値
営業利益率	3.8%	▶	11.0%	9.6%	10.0%以上
ROE	5.5%	▶	11.8%	8.9%	10.0%以上
	2013		2023	2024.3期	目標値
自己資本比率	56.4%	▶	82.6%	82.8%	60%以上
	2013		2023	2024.3期	目標値
PBR	0.8倍	▶	0.8倍	0.9倍	1.0倍以上
PER	15倍	▶	9.0倍	10.3倍	10.0倍以上

企業価値向上に向けた一つの目安として
PBR1倍超を目指し各種施策を実行

①稼ぐ力の強化

各事業の
資産見直し

スポーツ用品
セグメントにおける
FRP製品の事業多角
化・PR領域の拡大

人的資本への大幅投資

DX投資・自動化
への投資

ガバナンス強化に
向けた投資

②新成長戦略

成長分野への
リソース再配分

新規分野への投資

R&Dの強化

経営戦略委員会の設置
などガバナンス強化

③新株主還元方針

利益還元方針を強化

株主資本配当率による
還元

長期株主優待制度の
新設

④投資家との コミュニケーション向上

決算説明会
年2回開催

個別面談の
積極的実施

IR交流会の発足



企業価値の
最大化

目標

PBR 1倍超



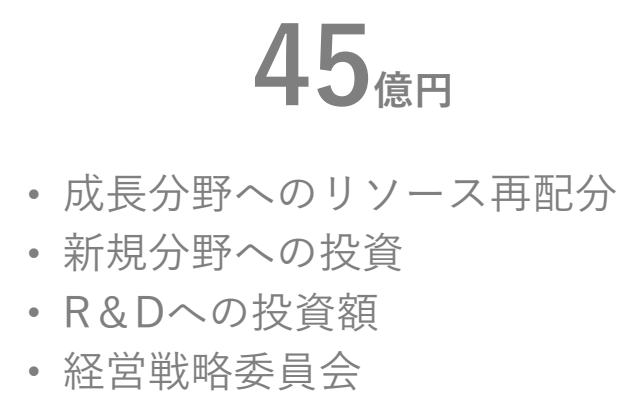
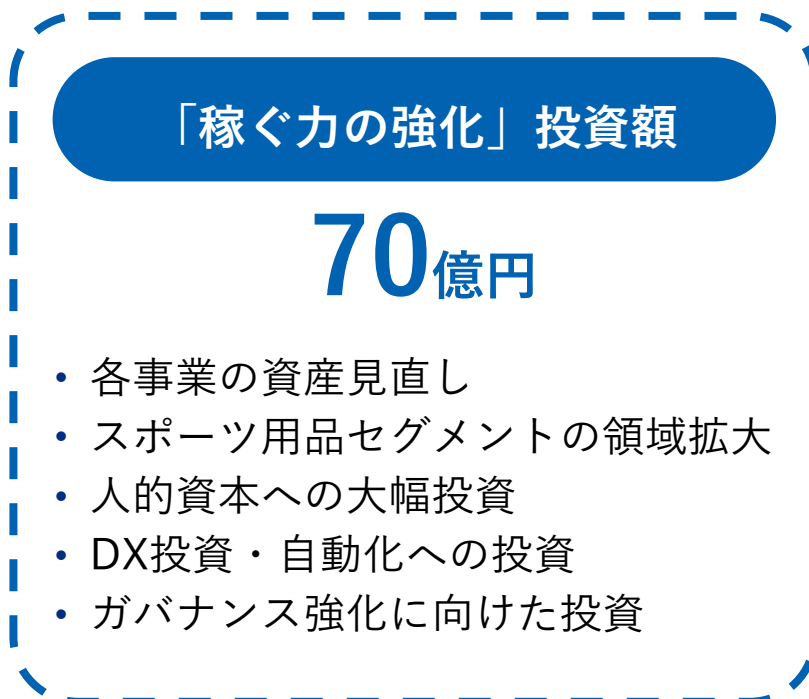
V. 企業価値向上の実現に向けた取り組みの進捗状況

- ① 稼ぐ力の強化
- ② 新成長戦略
- ③ 新株主還元方針
- ④ 投資家とのコミュニケーション向上



FUJIKURA COMPOSITES

資本コストや株価を意識した経営の実現を進め
中長期的な企業価値向上を目指す



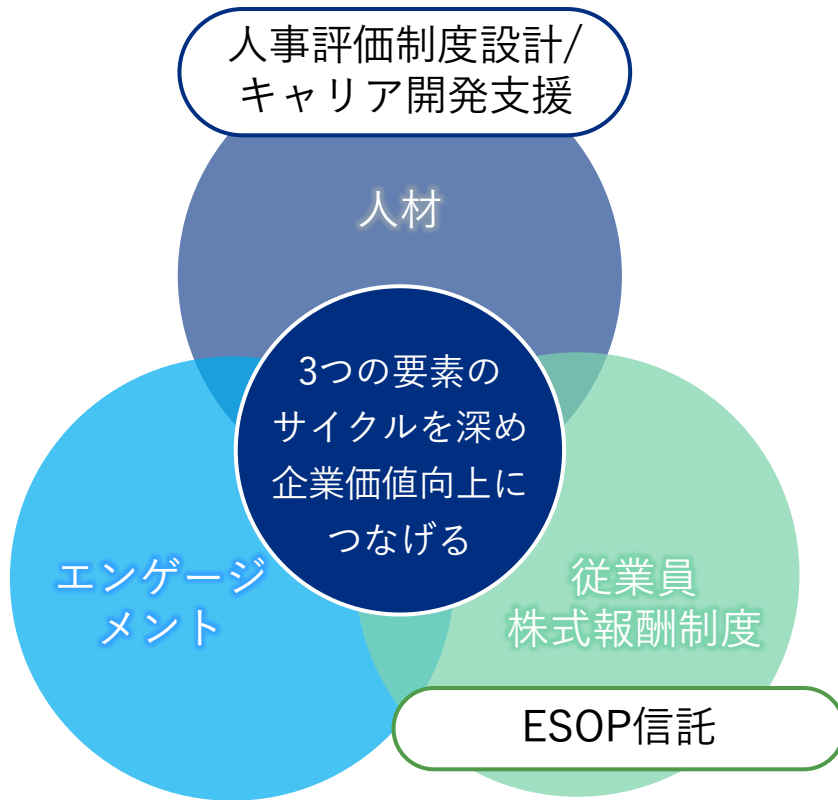
「稼ぐ力の強化」投資金額：70億円

	投資金額	進捗	具体的施策	完了予定
各事業の 資産見直し	約42億円	60%	<ul style="list-style-type: none"> 小高工場再稼働に向けた新規投資 印材部門からの撤退 資本コストを上回った付加価値を生み出しているか再検証 生産設備や生産拠点の統廃合を進め、資産のスリム化・強靱化を実行 	2026年3月
スポーツ用品 セグメントの 領域拡大	約7億円	95%	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる産業分野の軽量化要求にこたえるFRP製品の拡大 ゴルフシャフト製造ラインの強化、各種FRP製品の一貫生産ラインの構築 キャラバンシューズのブランド力を生かし、新市場へ展開 	2025年3月
人的資本への 投資	約14億円 ⇒ブレイクダウンした 内容は41P～42P	20%	<ul style="list-style-type: none"> 事業環境の変化に対応した目指す人材ポートフォリオの実現 エンゲージメント向上に対する取り組みの強化 評価制度の見直しを行い、新たな分配制度として従業員株式報酬制度を導入 従業員のキャリア開発支援に向け、教育訓練や海外経験の機会提供 障害者雇用制度の拡充（特例子会社の有効活用） 従業員持株会奨励金の増額 	2026年3月
DX投資・自動化 への投資	約6億円	15%	<ul style="list-style-type: none"> DXを導入し、業務の生産性向上と経営のスピードアップを進める 生産工程の自動化を推進し、コスト競争力の向上を図る 	2026年3月
ガバナンス強化 への投資	約1億円	10%	<ul style="list-style-type: none"> ガバナンス高度化に向け、取締役会及び経営会議のアジェンダ再設定 実効性評価の第三者機関の関与 サイバーセキュリティリスクの取り組み 	2025年3月

人的資本への
大幅投資

約14億円

- ・ 事業環境の変化に対応した目指す人材ポートフォリオの実現
- ・ エンゲージメント向上に対する取り組みの強化
- ・ 評価制度の見直しを行い、新たな分配制度として従業員株式報酬制度を導入
- ・ 従業員のキャリア開発支援に向け、教育訓練や海外経験の機会提供
- ・ 障害者雇用制度の拡充（特例子会社の有効活用）



人事評価制度設計/キャリア開発支援

複線人材制度の一環として、専門分野に特化したキャリア形成を行う「職務限定総合職」、将来のマネジメント人材の育成を目的とする「高度専門職」を新たに導入

		総合職			
		エリア総合職	職務限定総合職	総合職	高度専門職
人材の定義		異動を伴わず専門領域の確立をめざし専門性・経験を求められる職務を担当し、事業貢献と自己能力を高める人材	異動を伴わず専門領域の確立をめざし専門性・経験を求められる職務を担当し、事業貢献と自己能力を高める人材	知識・経験・ノウハウをベースに高いパフォーマンスを発揮して、事業運営上における課題を解決し、事業を牽引する人材	社会、経済の各分野において指導的役割を果たす、経営を補佐する高度で専門的な職業能力を有する人材

稼ぐ力の強化：人的資本への投資

人的資本への
大幅投資

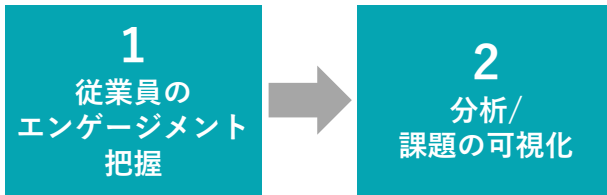
約14億円

- ・ 事業環境の変化に対応した目指す人材ポートフォリオの実現
- ・ エンゲージメント向上に対する取り組みの強化
- ・ 評価制度の見直しを行い、新たな分配制度として従業員株式報酬制度を導入
- ・ 従業員のキャリア開発支援に向け、教育訓練や海外経験の機会提供
- ・ 障害者雇用制度の拡充（特例子会社の有効活用）

エンゲージメント調査

組織内の課題を特定し、経営層と共有し自社に必要な人材施策を立案するためにエンゲージメント調査を実施。

アセスメント



コーチングで実行支援



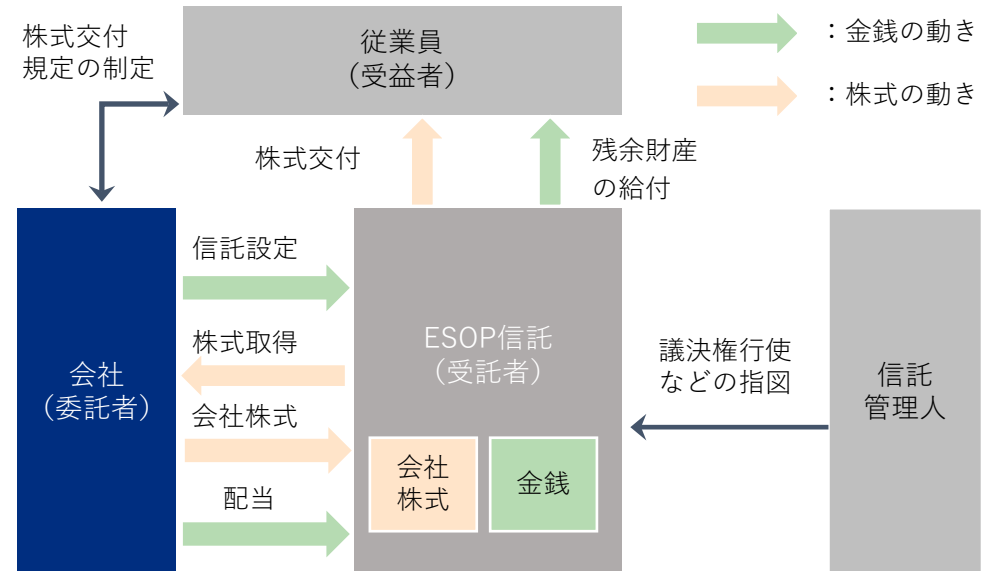
適切な施策の実行により
従業員のエンゲージメント向上を図る

従業員株式報酬制度の導入

従業員の自社への帰属意識の醸成、経営参画意識の向上、中長期的な業績向上や株価上昇に対する意識を高めることで、中長期的な企業価値向上を図ることを目的に導入。中長期的な企業価値向上や会社株式の交付により、従業員の資産形成を促進。

ESOP (Employee Stock Ownership Plan) 信託制度とは

会社の自社株（会社株式）を、ESOP信託を經由して従業員に交付する制度



スポーツ用品

国内外ツアーモデル使用率No.1「VENTUS」がアップグレード
フジクラシャフト新商品「24 VENTUS BLUE」発売

2024年
4月発売

THE ULTIMATE CONSISTENCY UPGRADE



- 最新の「VeloCore Plus」テクノロジーを搭載、フィーリング、安定性、スピードの向上に成功
- スイング中やインパクト時の軌道をより安定させ、優れたボールコンタクトを実現

全てのスイングに“輝き”を DIAMOND SPEEDER

東レ(株)製の最新カーボン「トレカ®M46X」を
ゴルフシャフトで初採用しアップグレード



「DIAMOND SPEEDER」
最新モデル



JEWEL
LINE

トレカ®M40X

トレカ®M46X

超高強度

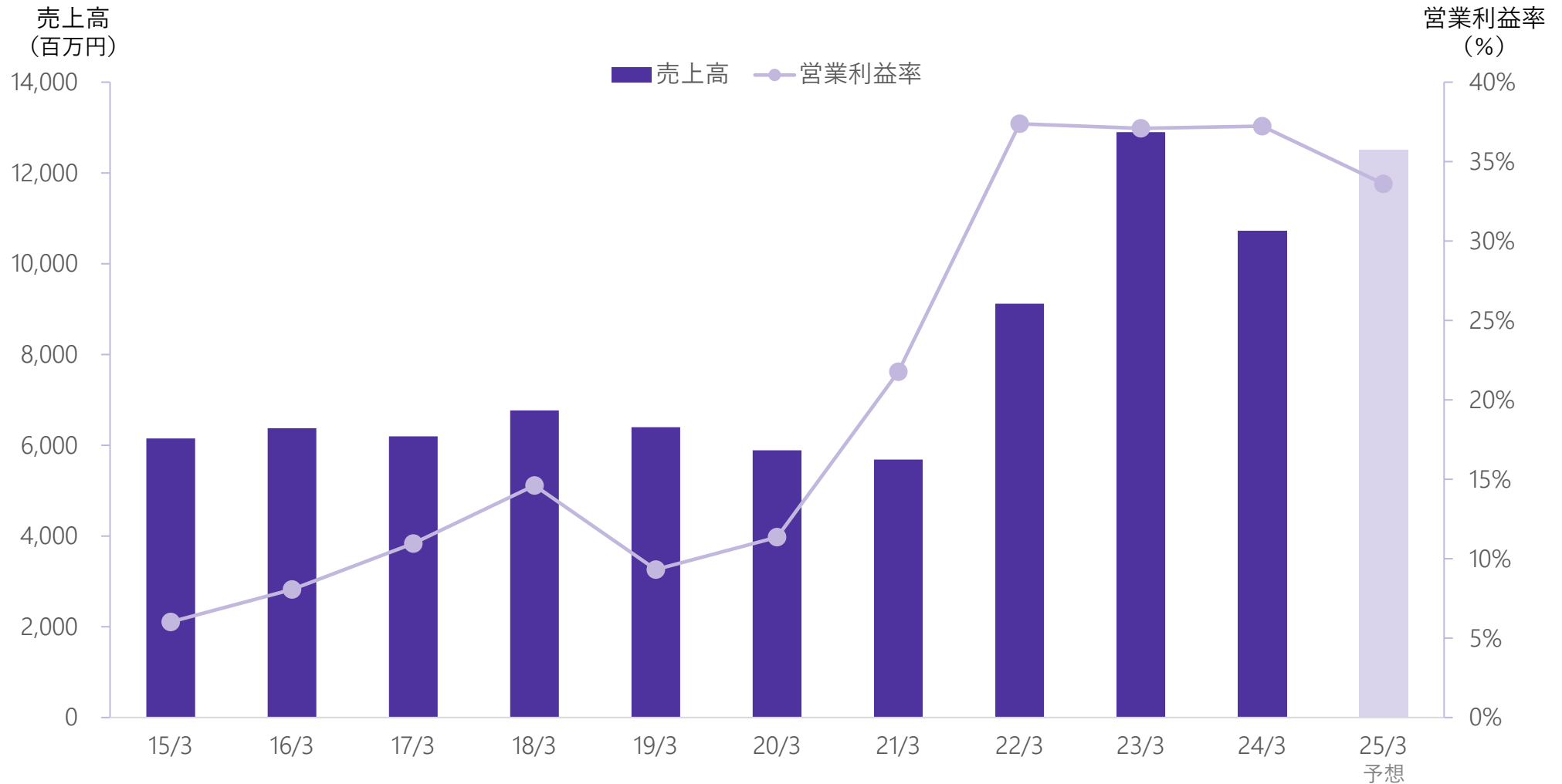
高い
弾性率

ダブル積層

スイングからアウトプット出来る
全ての飛距離要素をインパクトに直結できる設計

稼ぐ力の強化：スポーツ用品セグメントの領域拡大

- 右肩上がりで急成長
- 自社ブランドのアフタマーケット市場で高い利益率を確保



稼ぐ力の強化：トピックス②医療分野への取り組み

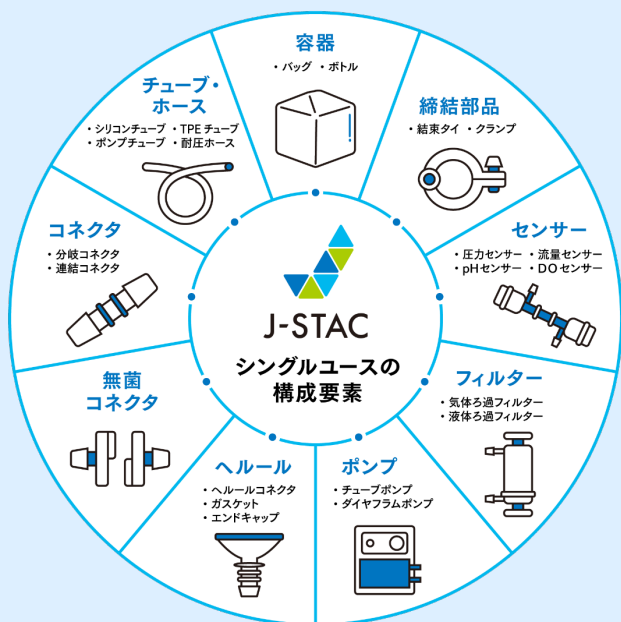
産業用資材
医療

国産のシングルユース製品へのこだわり
日本の医療を変える新たな共同体「J-STAC」を形成

シングルユース技術国産化
共同体 (J-STAC)

- 医薬品製造に必要なシングルユース製品の継続的な安定供給を目指す
 - ・ 日本国内企業におけるシングルユース製品開発の加速
 - ・ 国際情勢に影響されないサプライチェーンの構築

パートナーシップに参画する企業の技術・叡智を結集し、医薬・医療分野の継続した発展に貢献



アッセンブリ
医薬品製造会社へ

当社のシングルユース製品への展開



FUJIKURA COMPOSITES

無菌コネクタ・ヘルール

シリコンチューブ

「J-STACメンバー」

- | | |
|-------------|-----------|
| ● 東京計装株式会社 | … センサー |
| ● 株式会社トヨックス | … 耐圧ホース |
| ● ニッタ株式会社 | … TPEチューブ |
| ● 藤森工業株式会社 | … アッセンブリ |
| ● 株式会社ロキテクノ | … フィルター |
| ● 株式会社タクミナ | … ポンプ |



V. 企業価値向上の実現に向けた取り組みの進捗状況

- ① 稼ぐ力の強化
- ② 新成長戦略
- ③ 新株主還元方針
- ④ 投資家とのコミュニケーション向上



FUJIKURA COMPOSITES

資本コストや株価を意識した経営の実現を進め
中長期的な企業価値向上を目指す



「稼ぐ力の強化」投資額

70億円

- 各事業の資産見直し
- スポーツ用品セグメントの領域拡大
- 人的資本への大幅投資
- DX投資・自動化への投資
- ガバナンス強化に向けた投資



「新成長戦略」投資額

45億円

- 成長分野へのリソース再配分
- 新規分野への投資
- R&Dへの投資額
- 経営戦略委員会

「新成長戦略」投資金額：45億円

成長分野へのリソース再配分

5つの分野を成長分野と位置付け、組織の見直しを行い、経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報を再配置を実行

次世代自動車

半導体

安全（救命）

医療

新エネルギー

- ・ 自動車の電動化市場へのアプローチを強化
- ・ 液晶・半導体関連の拡大
- ・ 医療関連事業の強化
- ・ 液体検知センサの開発を強化
- ・ 改良型内部収容型救命浮器を開発

R&Dへの投資

将来に向けた基礎研究の充実と開発体制の強化

- ・ AIやMI（Materials informatics）を応用した基礎研究の充実により、開発期間の大幅な短縮を実現
- ・ 社内エントリー制度を活用した開発体制の創設

新規分野への投資

積極的に資金配分を実施。事業ポートフォリオの変革に取り組み、将来のシナジー効果創出のM&Aやスタートアップ・大学研究機関との提携など幅広く検討

M&A

スタートアップ

大学研究機関との
産学提携

- ・ Fu Yu社との業務提携により、シナジー効果創出
- ・ スタートアップとのオープンイノベーションを通じて新規分野への拡大
- ・ 当社主導による学会へのアプローチ強化

経営戦略委員会（仮称）

中長期的で幅広い多様な観点から株主視線で重要な経営テーマについて検討

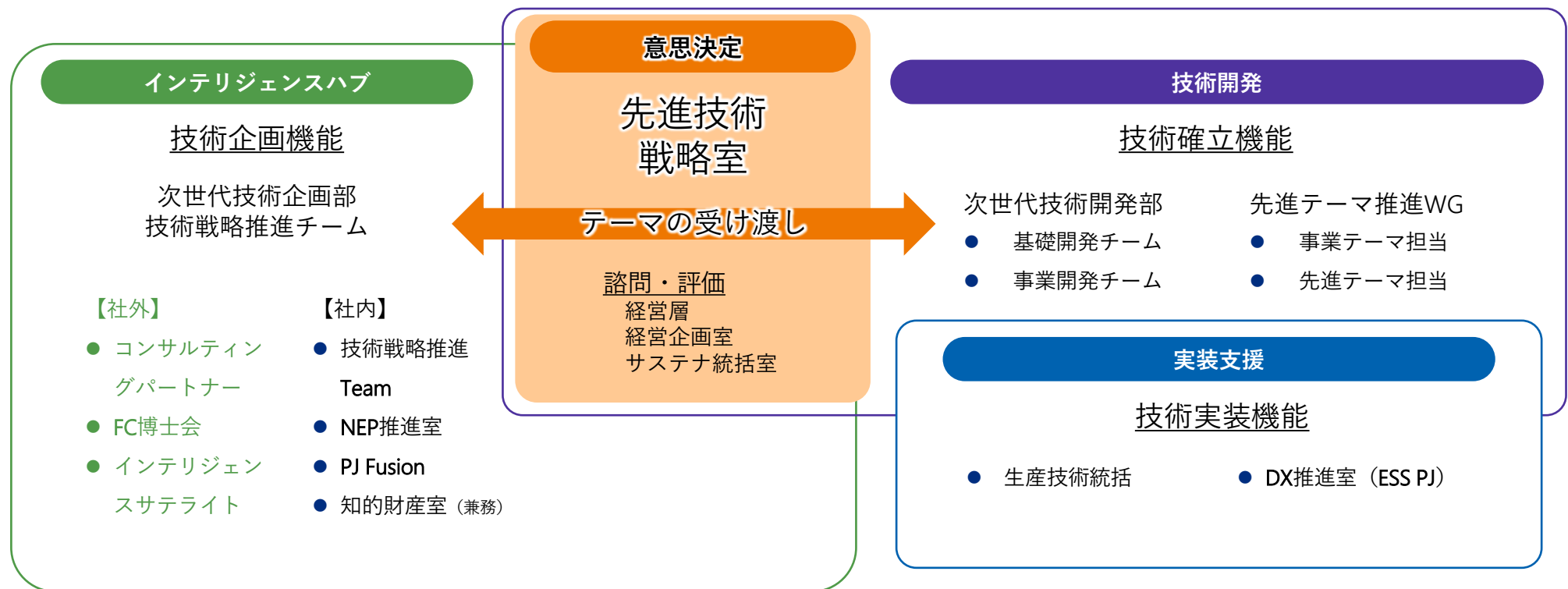
- ・ 取締役会の実効性評価
- ・ 中長期経営戦略
- ・ M & A や事業提携などグループ成長戦略
- ・ サステナビリティ関連投資

「新成長戦略」
投資額

約45億円

- ・ 成長分野へのリソース再配分
- ・ 新規分野への投資
- ・ R&Dへの投資
- ・ 経営戦略委員会

イノベーション創出を目指し技術企画の機能と外部リソースを活用した先進技術戦略室を中心とする仕組みづくりを整備



産業用資材

Fu Yu社との業務提携

2023年9月、シンガポールのFu Yu社と業務提携を締結

全社的な事業構造の変革を推進

相互の強みを活かし、シナジー効果の最大化

活動進捗

プロジェクトを発足し本格的に活動開始

- 両社顧客への訪問を含めたコンタクト
- ゴム/樹脂/金属/ユニット製品/新技術での拡販活動

- 注力市場であるBEV分野における複合化製品を両社で開発中
- 半導体・医療市場向けのアプローチも開始



産業用資材 自動車

自動車の電動化市場、及び新燃料市場への アプローチを強化

- 車の電動化に伴う市場ニーズに応える技術開発及び拡販に注力中
- PHEV・BEV・FCVをメインターゲットとした構成ユニットごとアプローチを実践



電動化市場向け取り組み【例】

- 自動車市場向け展示会への出展
- LIB関連各種機能材の開発・拡販

- FCV関連
各種シール材の開発
- 車両の静寂性・快適性向上に寄与する機能材の開発
- e-Fuel向けゴム配合の研究・開発

オートモーティブワールド @東京ビッグサイト

3年連続
出展

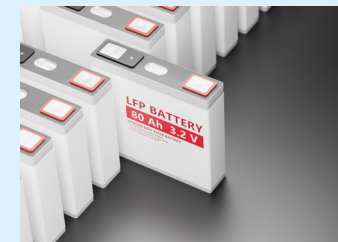


人とくるまのテクノロジー展 2024 YOKOHAMA
Automotive Engineering Exposition 2024 YOKOHAMA

初出展

リチウムイオンバッテリー(LIB)市場 開発案件

バッテリーパック セル機能保全&異常発熱対策



通常使用時のセルの膨張収縮を吸収し、
異常発熱時の過剰膨張抑制と断熱性向上

産業用資材 センサ

バッテリーレス液体検知センサ発売

バッテリーレス多用途センサ・フレキシブルセンサ開発中

バッテリーレス液体検知センサ

2024年
2月発売

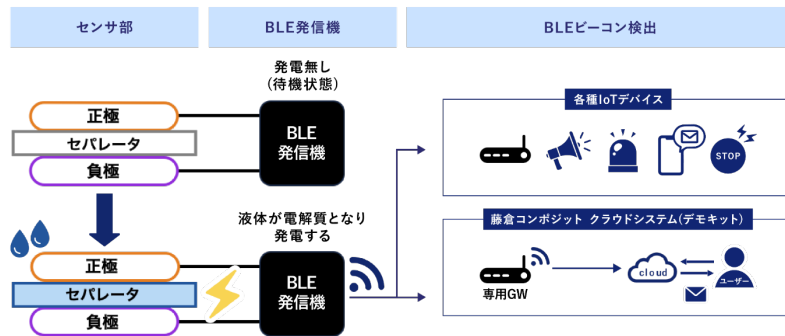
【液体検知センサの特徴】

- センサ(発信側)に電源は一切不要
- 数滴の水(その他液体)を検知可能
- 薄くて小型なため狭い場所への設置が可能
- 液体の検知をスマホやパソコンへメール通知
- 取扱いが容易なディスプレイ



センサ素子

【システム概要】GWがBLEビーコンを受信しクラウドを経由し、管理者へメール通知できるシステム



■ 特徴

- 1台のGWで複数のBLE発信器からの無線受信が可能（電波が届く範囲であれば何台でも）
- BLE送信機1台1台が固有のIDを持つため、発信器の識別が可能
- 検知データの履歴をcsvデータでエクスポート可能

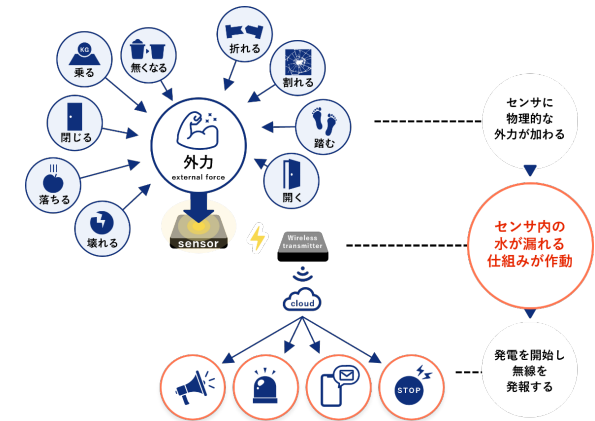
バッテリーレス多用途センサ

開発中

様々な用途で活躍できる

これまでにない画期的なバッテリーレスセンサ

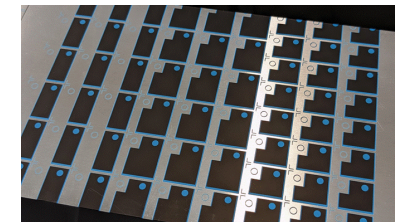
液体検知センサの発電原理を応用し、様々な外力の作用や物理変化を検知することが可能なバッテリーレス多用途センサを開発中。



フレキシブルセンサ

開発中

当社の液体検知センサを『安く』・『大量に』生産し、お客様の元へ提供するため、『スクリーン印刷による製造技術』について現在検討を実施。





V. 企業価値向上の実現に向けた取り組みの進捗状況

- ① 稼ぐ力の強化
- ② 新成長戦略
- ③ 新株主還元方針
- ④ 投資家とのコミュニケーション向上



FUJIKURA COMPOSITES

持続的な成長および企業価値向上、適正な株価維持、長期安定株主の確保に向け、積極的な投資活動の実行と、株主の皆様に対しさらなる利益還元の充実

新株主還元方針

株主資本配当率（DOE）

4.0%以上を目安。

1株あたり年間配当額は45円を下限

配当

中間配当と期末配当の年2回

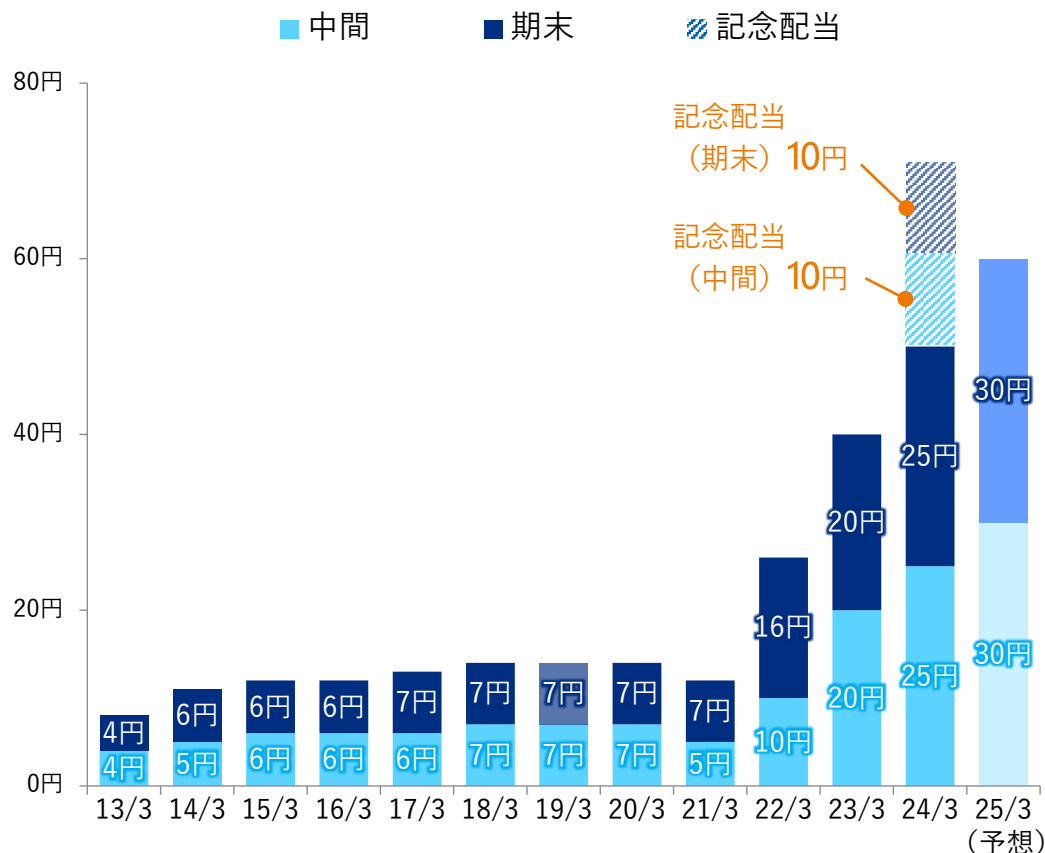
自己株式取得

資本効率株価の状況を加味して継続的かつ段階的に自己株式の取得実施

株主優待

500株以上3年以上の保有の株主に対して長期優待制度を新設

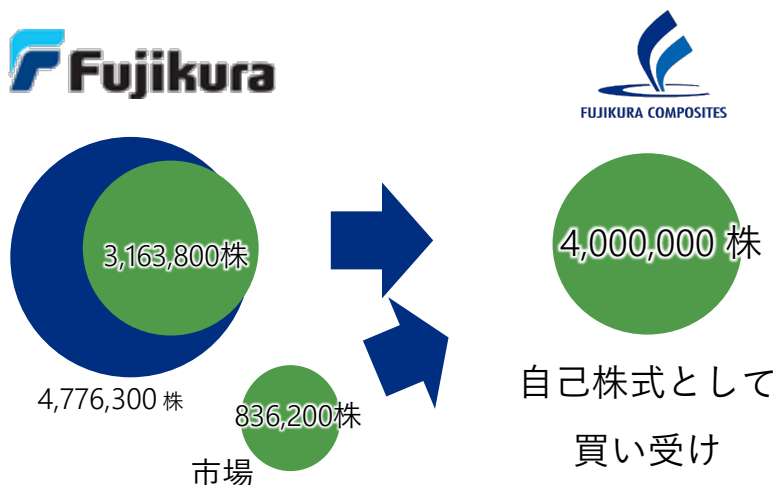
1株当たり年間配当金の推移



株式持ち合い解消にむけて

2024年5月13日に、筆頭株主の株式会社フジクラより、
保有株式の一部を自己株式として取得。
今後も資本効率の状況を加味しながら
株主還元を強化すべく自己株式の取得を実施。

筆頭株主である株式会社フジクラが
保有する当社株式の一部を
自己株式として取得



株式会社フジクラの異動前後の
所有株式と議決権比率の変化

異動前

4,776,300 株
議決権比率20.40%
(第1位)

異動後

1,612,500 株
議決権比率 8.31%
(第2位)

※2024年5月13日現在



V. 企業価値向上の実現に向けた取り組みの進捗状況

- ① 稼ぐ力の強化
- ② 新成長戦略
- ③ 新株主還元方針
- ④ 投資家とのコミュニケーション向上

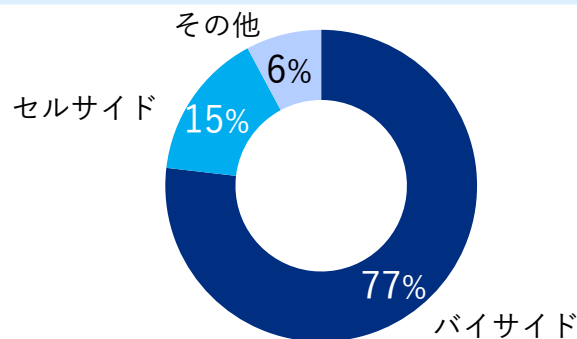


FUJIKURA COMPOSITES

2024年3月期の面談の状況

種別	回数	役員の主な対応者
決算説明会	2回	代表取締役社長、常務取締役管理本部統括
スモールミーティング	1回	常務取締役管理本部統括
個別面談	78回	常務取締役管理本部統括

面談した株主、投資家の概要



経営陣へのフィードバック状況

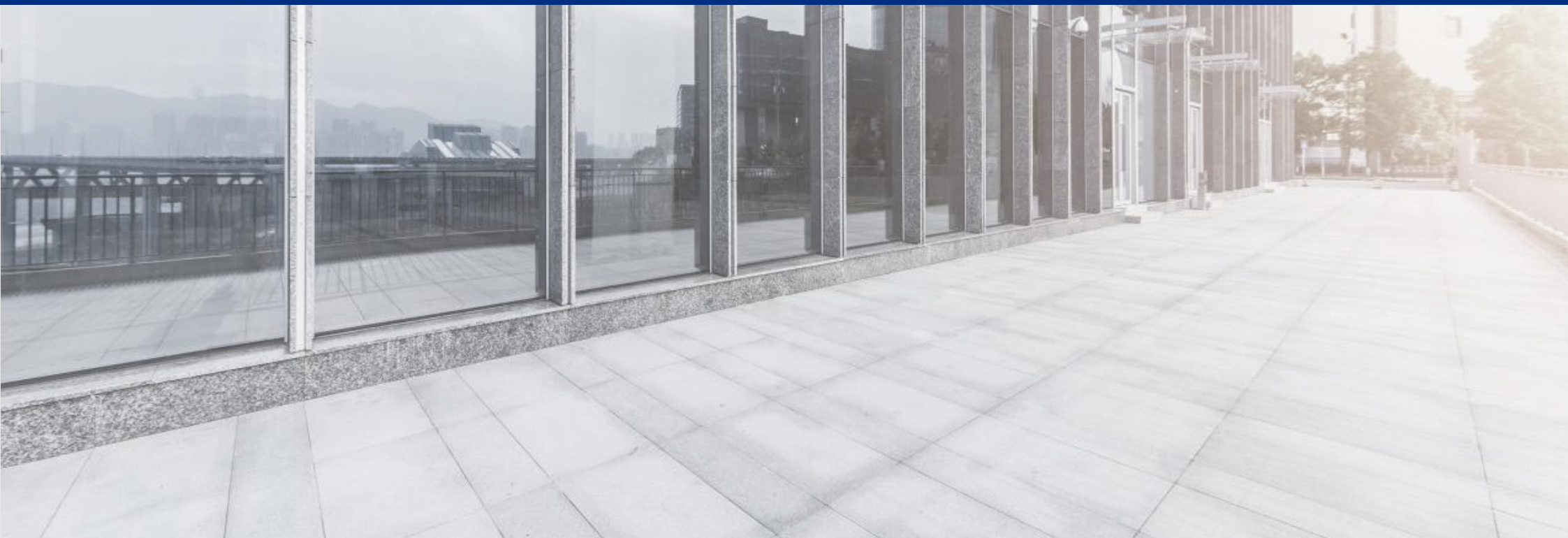
種別	頻度
IR活動状況	四半期ごと
投資家との対話の内容	面談実施時

主なテーマや投資家の関心事項

- 利益率改善についての取組み
- 事業環境の動向、当社の認識
- 各事業における特性
- PBR1倍超に向けての施策
- 株主還元強化

株主・投資家との対話に基づく主な対応

- PBR1倍超の施策について教えてほしい
⇒本資料にて進捗を開示
- 地域別の売上高が分かりにくい
⇒決算短信への記載を追加、決算説明会資料にも記載を追加



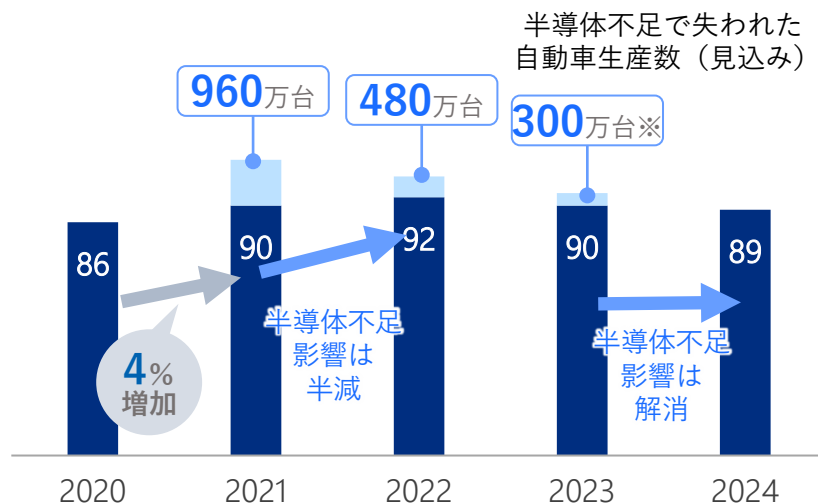
VI. Appendix



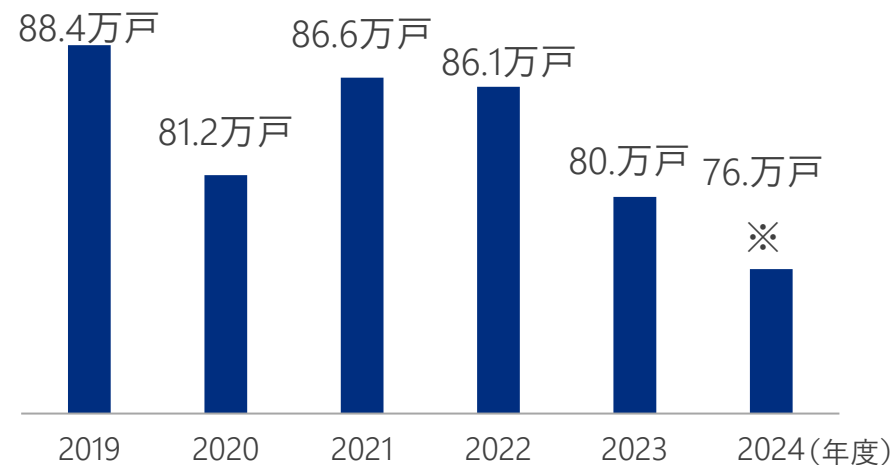
FUJIKURA COMPOSITES

主要な外部環境データ

1. 自動車生産台数推移 (※2023年予測値)



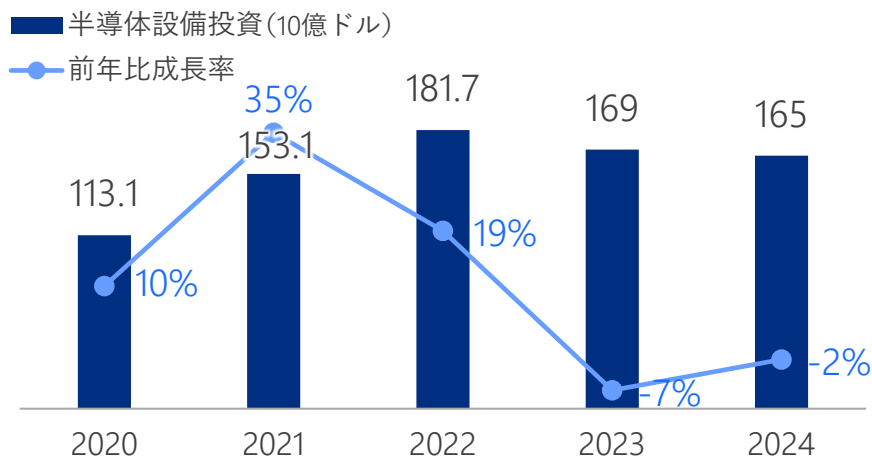
2. 新設住宅着工戸数の推移 (※季節調整値年率)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」をもとに作成

(参考) AUTO CAR JAPAN、LMCオートモーティブ、AutoForecastSolutions、International Union of Marine Insurance
 ※2023年度予測値

3. 半導体関連設備投資と前年比成長率の推移



(参考) Semiconductor Intelligence

杭州藤倉橡膠有限公司（杭州藤倉）

中国浙江省所在の工業用ゴム製品の製造販売拠点、販売のための分公司を上海と広州に有する。原材料から金型の開発も担い中国地域のR&D拠点でもある。1996年3月18日設立。資本金40,036千元。

安吉藤倉橡膠有限公司（安吉藤倉）

中国浙江省所在の工業用ゴム製品の製造販売拠点。2016年7月第二工場竣工、同年10月より稼働している。自動車部品用に最新鋭の自動化成形加工設備を導入している。2011年2月28日設立。資本金149,465千元。

FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, INC. (FCH)

ベトナム北部ハイフォン市に所在の産業用資材、引布加工品およびゴルフ用カーボンシャフトの製造拠点。2014年6月に第二工場を竣工、2017年4月には検査棟が竣工され、さらに工業用品部門の拡大を予定している。2002年9月18日設立。資本金2,947千米ドル。

IER Fujikura, Inc. (IFI)

米国オハイオ州所在の工業用ゴム製品の製造販売拠点。北米での営業を強化すると同時に、自動車分野以外の市場開拓を進めている。1958年創業のIER社を2006年3月に買収し、同年5月24日設立。資本金3,800千米ドル。

Fujikura Composite America, Inc. (FCA)

米国カリフォルニア州カールスバッド所在のゴルフ用カーボンシャフトの開発および販売拠点。最大のゴルフ市場である米国において、ブランディング戦略の推進と更なるシェアの確保に邁進している。1994年7月14日設立。資本金4,000千米ドル。

株式会社キャラバン

1952年に製造開始した軽登山用「キャラバンシューズ」をはじめとして、登山、アウトドア用品の開発製造販売および輸入販売を行っている。1954年6月19日設立。資本金156百万円。

1901年 10月	藤倉電線護謨合名会社を創立、ゴム引布の製造を開始。
1910年 3月	電線部門とゴム部門を分離、藤倉合名会社防水布製造所を設立。
1920年 4月	株式会社に改め藤倉工業株式会社を設立。
1948年 10月	藤倉ゴム工業株式会社に商号変更。
1949年 5月	東京証券取引所に上場。
1953年 2月	藤栄運輸株式会社（現連結子会社）を設立。
1959年 4月	大阪営業所（現大阪支店）を開設。
1969年 4月	福島県原町市（現南相馬市）に原町工場開設。
1971年 9月	埼玉県岩槻市（現さいたま市岩槻区）に岩槻工場開設。
1972年 10月	茨城県勝田市（現ひたちなか市）に勝田出張所（現勝田営業所）開設。
1985年 6月	藤栄産業株式会社を設立。
1991年 4月	株式会社キャラバン（現連結子会社）を子会社化。
1994年 7月	米国カリフォルニア州ビスタ市にFujikura Composite America, Inc.（現連結子会社）を設立。
1996年 5月	中国浙江省杭州市に杭州藤倉橡膠有限公司（現連結子会社）を設立。
2000年 11月	名古屋営業所を開設。
2002年 9月	ベトナムハイフォン市にFUJIKURA COMPOSITE HAIPHONG, Inc.（現連結子会社）を設立。
2006年 5月	米国オハイオ州のIER Fujikura, Inc.（現連結子会社）を子会社化。
2009年 7月	米国イリノイ州にFUJIKURA GRAPHICS, INC.（現連結子会社）を設立。
2010年 11月	福島県南相馬市に小高工場開設。
2011年 1月	岩槻工場内にエンジニアリングセンター開設。
2011年 2月	中国浙江省安吉経済開発区に安吉藤倉橡膠有限公司（現連結子会社）を設立。
2011年 9月	本社事業所及びスポーツ用品営業部を東京都江東区へ移転。
2012年 3月	韓国ソウル市にFujikura Composite Korea, Co., Ltd.を設立。
2012年 4月	埼玉県加須市に加須工場開設。
2015年 5月	米国ニュージャージー州にFUJIKURA GRAPHICS, INC.（現連結子会社）を移転。
2017年 4月	FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, Inc.の検査棟を竣工。
2018年 3月	中国大連市に安吉藤倉橡膠有限公司の大連事務所開設
2019年 4月	藤倉コンポジット株式会社に商号変更。
2020年 4月	藤栄産業株式会社を吸収合併。 原町工場内にLIM棟開設。
2022年 6月	有限会社テクノロジーサービスを子会社化

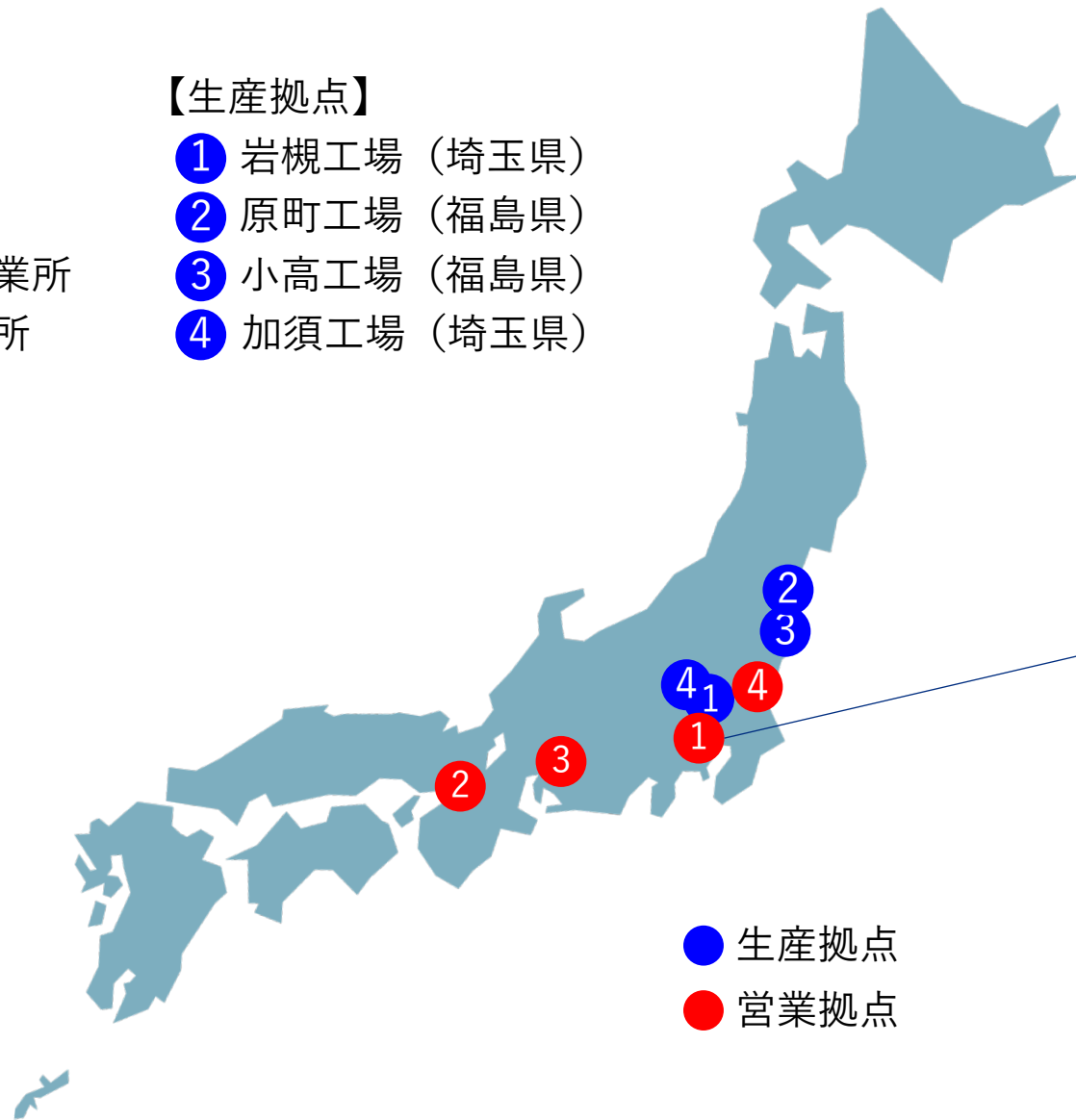
国内拠点 ～国内製造3拠点～

【営業拠点】

- ① 本社
- ② 大阪支店
- ③ 名古屋営業所
- ④ 勝田営業所

【生産拠点】

- ① 岩槻工場（埼玉県）
- ② 原町工場（福島県）
- ③ 小高工場（福島県）
- ④ 加須工場（埼玉県）



本社

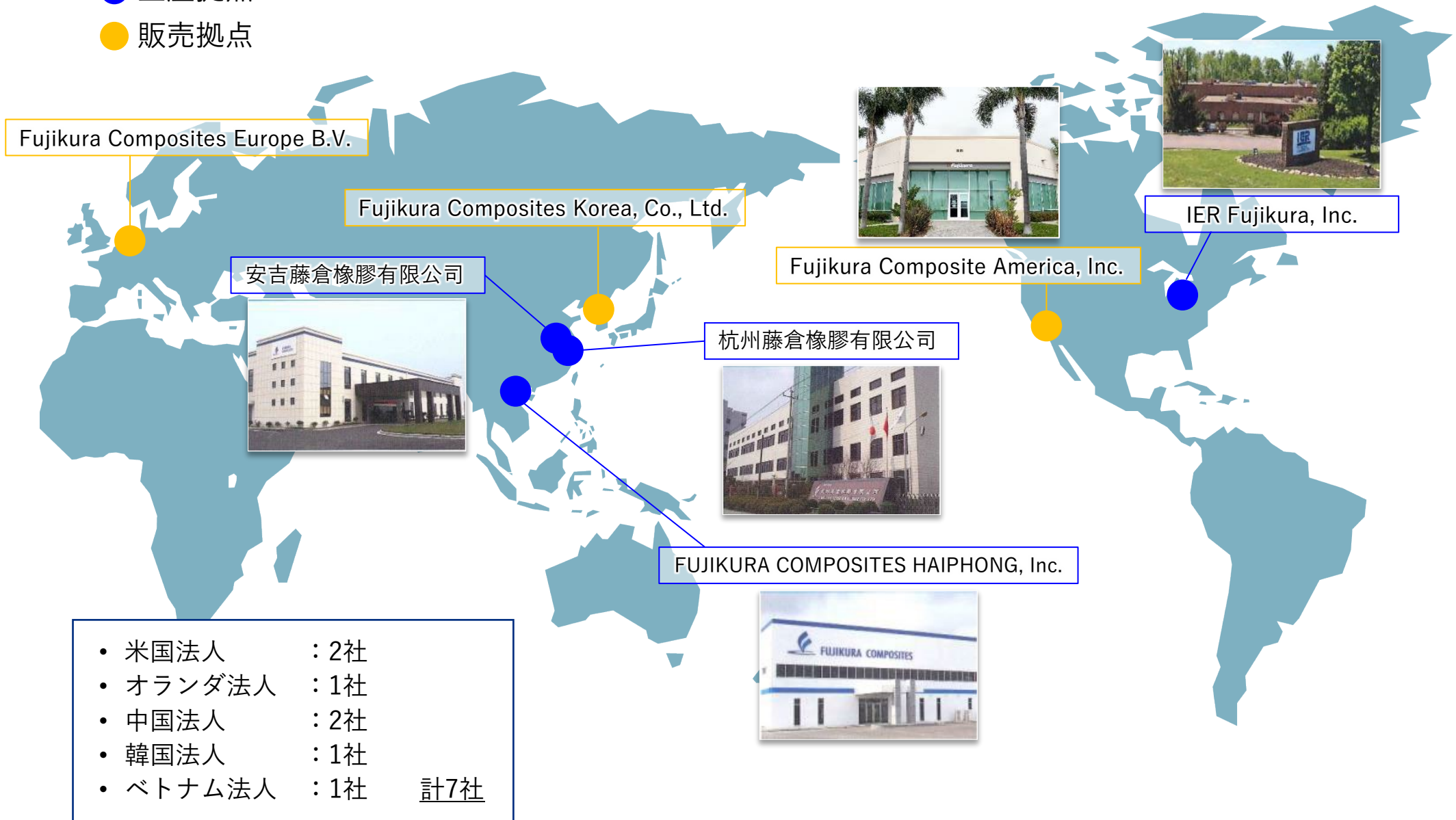


東京都江東区有明3-5-7
TOC有明イーストタワー

グローバル拠点 ～米国、中国、ベトナムを中心に計7社～

● 生産拠点

● 販売拠点



■ 岩槻工場



設立：1971年9月
所在地：埼玉県さいたま市岩槻区
従業員数：384名（2024年3月末現在）
敷地面積：49,088㎡
延床面積：34,950㎡
主要製品：電気材料、印刷材料、ゴム引布、加工品

■ 原町工場



設立：1969年4月
所在地：福島県南相馬市
従業員数：371名（2024年3月末現在）
敷地面積：47,981㎡
延床面積：18,752㎡
主要製品：工業用ゴム製品、制御機器、スポーツ用品

■ 加須工場



設立：2012年4月
所在地：埼玉県加須市
従業員数：137名（2024年3月末現在）
敷地面積：28,840㎡
延床面積：16,343㎡
主要製品：工業用ゴム製品、混練り

■ 小高工場



- スポーツ用品セグメント（2024年10月再稼働予定）
ゴルフシャフト及びCFRP製産業用品の開発・製造
既存事業の拡張性を確保しつつ新規事業の立ち上げ
スペースを確保することを目的に設立
- 産業用資材セグメント 制御機器部門（2025年3月再稼働予定）
液晶・半導体製造装置を中心とした構造部材の加工及び組み立て
既存事業の精密空圧機器の組立から事業範囲を拡大

■ 原町工場併設 LIM棟



- 2020年に新設
- 医療用ゴム製品を含むLIM製品の生産設備を移管し、生産効率の改善を図る目的で設立

米国法人



■ IER Fujikura, Inc.

設立：2006年5月
所在地：オハイオ州
従業員数：98名（2024年3月末現在）
事業内容：工業用ゴム製品の製造販売



■ Fujikura Composite America, Inc.

設立：1994年4月
所在地：カリフォルニア州
従業員数：29名（2024年3月末現在）
事業内容：ゴルフ用カーボンシャフトの開発及び販売

中国法人



■ 杭州藤倉橡膠有限公司

設立：1996年3月
所在地：浙江省杭州市
従業員数：321名（2024年3月末現在）
事業内容：工業用ゴム製品、制御機器の製造販売
支店：広州市



■ 安吉藤倉橡膠有限公司

設立：2012年2月
所在地：浙江省湖州市
従業員数：279名（2024年3月末現在）
事業内容：工業用ゴム製品の製造販売
支店：大連市

ベトナム法人



■ FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, Inc.

設立：2002年9月
所在地：ハイフォン市
従業員数：759名（2024年3月末現在）
事業内容：産業用資材、引布加工品及び
ゴルフ用カーボンシャフトの製造

【注意事項】

資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。

そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあり得ます。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

藤倉コンポジット株式会社
人事総務部 総務広報チーム
TEL：03-3527-8412 FAX：03-3527-8330